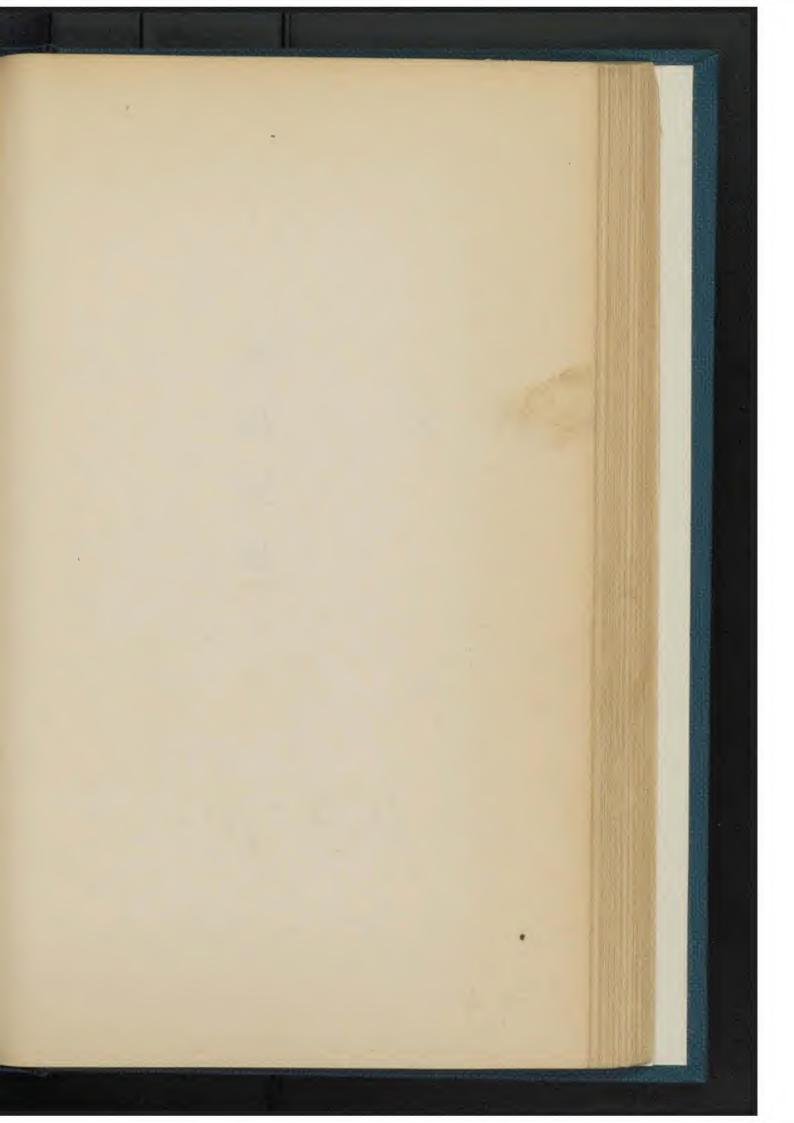
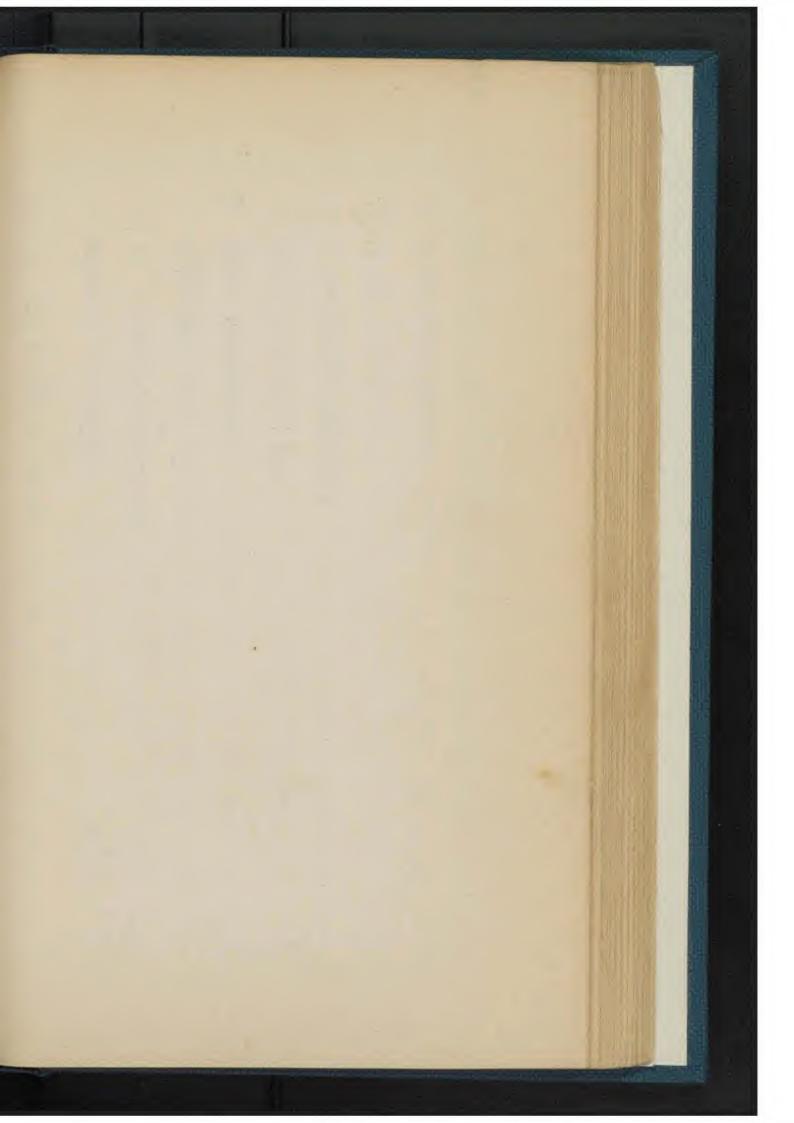
册尾附錄



九	八	七	六	Ŧī.	四		_	
鐵	洋人	濠	ベル	露領	露人	異船	水戶	海軍
炮	日本探	洲ノ發	リ艦隊	及北米	ノ干島	打拂令ノ	ノ快風丸	歴史ノ小
記:	檢書籍目	見	訪日遠転	漂流者	諸島來信	消長	入到石狩	小笠原島
	目		航行動	一覽表	侵		川口	記事
			表				記事	
?								
								- - - - -
					*			•

				* * * * * * * * * * * * * * * * * * *				
159	151	137	133	129	121	115	113	103



海軍歴史ノ小笠原島記事

勝海舟ノ海軍 温 年 帆 按 文祿二年 之二於テハ追々民家引移シ可被申別段見分ノ者ハ遣ハサレ問敷旨ヲモ命セラル享保五年年(千七百 中此 y 5 此島二 レ唐製ノ巨艦ヲ造リ乘組同年五月五日着船六月五日巡見相濟三出帆同 ŀ ヲ ス 閨四 島見 距ル甚タ遠カラス隱然トシテ我カ南疆ノ藩籬タリ豊之ヲ度外視ス ルニ小笠原島ハ大洋中ニ基布シ蕞爾タル大倉ノ一粒ニ過スト雖モ遙ニ伊豆地方ニ對峙シ八丈諸 雖モ許サレス承應中紀州橘商船難風ニ遭ヒ此島 到ルヲ始トシ因テ命アリテ小笠原島ト名ク其後元禄中ニ至リ再ヒ渡航センコトヲ乞フ者 分ノ者被遣候趣承及貞賴末孫小笠原宮內ョリ渡海相願由絡分明ニョリ願之通被差許人家無 月五日長崎住島谷市左衛門外三十八人記章資給ヲ賜リ出帆此船、長崎奉行牛込兹鎮ニ (千五百九十三年) 信濃深志領主小笠原民部少輔貞賴徳川家康公ノ旨ヲ受豆州下田ョリ出 歷史ハ其ノ卷ノ十、十一、十二ヲ小笠原島開拓ノ記ニ充ッ其ノ最終ニ日 三至リ歸帆ノ上申立延寶三四年 ヘケ 月二十二日下田 ンヤ 7 (千六百七十五 へ歸帆享保 命

千八百二十年(文政三年)甲比丹ベーセー此島二至リ「アルゾビスポ」ノ名ヲ命ス英ノ

ヤ沿岸及布哇等ョリ廣東地方二往來スル者日二蕃夕概此航路二由ラサル

々逡巡畏縮シ漸々其足跡ヲ此島ニ絕チ終ニ放薬シテ顧ルコトナキニ至レリ而シテ外人ノカ

ラ測量及其他ノ技術ラ講セサルカ故往々魚腹ノ恵ラ

抑當時我國

ノ船舶

ハ矮陋ニシテ風濤ノ險ヲ冒スニ足ラス又航海ノ業ハ一切之ヲ賤民伦父ノ手ニ委シ

発レサル

い理ノ當ニ然ル

ヘキナリ故ヲ以テ人

7]5

意二爰二止ル此ノ二人ノ者甲比丹ノ船發セシ後サンドキッチ二赴キ米人二人デネマルカ人一人カヌ

メハ三世ノ臣人男五人女十人ヲ移シ己レモ共ニ無人群島ニ居住セント計レ

三之丞外四人難風二遭也正月四日漂着同年三月二十四日下總銚子浦へ歸帆其他八五六年十一二年十 門船長祭右衞門等八人至ル天保十支年(千八百三十九年)十一月十日奥州氣仙郡小友浦庄兵衞船 七八年或八二十年在留便風ヲ得歸國申立ル旨以上舊記ニ見ユ 江米商人龜次郎船長儀三郎等九人至ル寬政元四年(千七百八十九年)六月薩州志布子浦商人三右衞 船持善助等七人至ル同四米年(千七百三十九年)正月堀江町船持善八船頭富藏十人至ル天明五七年 二十年)正月遠州荒井商人五兵衞船長左太夫水主八十八人至ル元文元辰年(千七百三十六年)濱町 (千七百八十五年)三月土佐赤浦商人儀七等七人至ル同七十年(千七百八十七年)十二月大阪北

千八百二十五年(文政八年)英ノ甲比丹ヒューチ工此島二至リ英ノ所領トス 栃內註 マルドックニロク千八百二十七年英艦プロッソム艦長ビーチェ小笠原島ニ至リ英王ノ名

ニ依リ占領ヲ宣言ス

土人ハ之ヲ嫌ヒ此地ノ頭取ナル者其ノ政事ヲ行ヒ英ノ法ニ從フヲ好マス

二十七年五月琉球ヲ發シ六月九日小笠原群島ニ達シ父島ノ二見港ニ入り泊シ島ヲ英領ト宣シ事由 the Command of Captain F. W. Beechey R. N. in the Years 1825, 26, 27, 28. 『依レヾ同艦ヾ千八百 杨內田夕 Narrative of a Voyage to the Pacific and Beering Strait performed in H. M. S. Blossom under ヲ銅板ニ刻シテ樹上ニ釘着シ島ヲ英政府ノ内務大臣ノ名ニ由リピール島ト名ケ港ヲオクスフォー 二ヶ年二及ヘルモノヲ見ル尚示此ノ島ハ千八百二十五年英船サップライニ依テ先ツ發見セラレタ ド僧正ノ名二由リポートロイドト名ク此ノ時英ノ捕鯨船ウイリヤム號ョリ逃レタル英人二名在住

ルヲ確メタリ

數年前 母島群島八千八百二十三年英ノ捕鯨船 Arzobispo ハ明カニボーニン島ニ當リ千八百十七年 M. Klaproth in his mémoire sur la Chine and マニラニ於テ出版セラレタル Navigaçion Especulativa Y. Pratica 二記載サレタル Yslas del (船長コツヒン氏) 入泊セシ事アリ

by M. Abel Remusat ノ著書ニボーニン島一名ムウーニンシマハ八十餘島ニ成リ内二大島アリ云々

ラブネジマト名ク無住ナルヲ以テナリ 有名ナルケンペルノ記事二日ク千六百七十五年日本船暴風ノ為又航路ヲ失シ八丈ノ東方三百マイ ルニ於テ一島ニ難破ス arrack tree (areca?)多ク又 crabs (turtle?)多ク長サ四尺ョリ六尺ニ及フ島

小笠原群島ハ千八百二十三年ニ至リ M. Abel Remussat 氏ノ説ニ依リアロースミスノ圖ニ記載サ

翌千八百二十八年魯ノ甲比丹リュッケ此島二至り領地トセントノ手段ヲナセリ

IV

ルコトトナレリ

栃內註

ドヰッチ島ノ男女數人ヲ伴ヒ到レリ千八百三十一年英ノ捕鯨船難破シ十二人此島ニ上リ內四人止っ 又西班牙人ノ至リシ時ハ「アルゾピスポ」ト名付ケタリ千八百三十年(文政十三年)米及歐人サン 千八百二十八年露船長 Lutke 小笠原島ニ至り占領ラ宣ス

(106)

w

栃内註 米人ナサニール、セーボレヲ長トシ歐米及サンドヰッチ人ノ一團千八百三十年永住ス セルクユイント云者へール島徒民ノ詳記ヲ著ス此島ハサンドヰッチニ居ル英ノ領事官及直ニプリ

7 17 U ニヤ 載 1 1. セ ノ政堂ョリ防護ス英ニテ此土ヲ守 1% JV サン アリ然ルニ其民流移シテ再ヒ 1 或 人云 y 千六百年 代 以前 1 华二 ノ如ク無人島 及 E 日 木 1 圖 1. 中 ス iv 旣 44 = 此群島三 何 7 t 家ヲ營ミ村落ヲ成 也

W

ヘキ

兵

士ヲ送ルニ

決

也

25

サンドヰ

ツチノ交易半ラ

割

テ

W

千八百 島 此 人 見 1 ス 舶 7 ---IV 1 論 セ 設 ナ 命 據 極 3/ ス 五十三年(嘉永六年)四 3 IV 15 有 メテ公平至當トス 14 此 1 H ~ T ス 丰 島ヲ檢 本人ナリ 3/ n w 總 所 國 ---い疑 由 テ 1 他 查 ラ ナ ノ記 -12 サラン ラ 故二英人早ク Æ ナ 3/ サ ク日本ナルベ メ又書ヲ 錄 ヘシ 1) -12 25 3/ 然ル 右 是亦我 وحر 月十日合衆國 頗 = 本 引 = 此 w 今ヤ政府の 國 島ヲ 國 丰 美 是 シ此地ヲ發見ス 1% 1 ノ鋭意海軍ヲ 發見 海軍省ニ寄セラ汽船ノ碇泊 IV 1 千六百 稱 水師 セシ 軍。 ス 艦。 ~ 提督 七十 ヲ。 ŀ 3/ 振起セ 云フ 1. 派。 五年 w 雖 ~ 3/0 最早ケレパ當今爱ニ 開 w 13 1 ・ノ發見 9 カラズ(以上彼理日本記事摘錄 サ 拓 -6 我國 IV 其 -~ 從 事 碇 カ 決 事 3 泊 ラ y 所 3/ 3/ 遥 以テ我 13 1-サ デ センコ 偶然ニ 加 w 後 比 1 丹 住 ノコ 力 トヲ 藩 非 3/ 例 ス 1 IV 3 證 ラ 鄉 者當然是ヲ支配 陳プ又云當然此 ナ 1 ス 7 1w V 此 固 ス 時 13 H IV ウ 最早ク發 我 3/ = 足 僅 7 二稍海 术 IV -外

栃內日 7 右 記 政府軍。 北艦ラ派 シっ云 4 -펢 シ海軍歷史卷 ノ十二遡リ要領ヲ摘 錄 スルコ ŀ 左 が如

海軍歷史卷之十

小笠原島開拓之上

文久元幸年九月十九日於新部屋前溜安藤對馬守中渡

是

水野筑後守

服部歸

越巨細實驗イタシ厚勘辨之上見込之趣可被申聞候事 伊豆國附島之御備向取調且小笠原島御開拓之御用被仰付候二付而者都合次第御軍艦へ乘組彼地へ罷

右ノ御軍艦ハ成臨丸ニシテ艦長即御軍艦頭取ハ小野友五郎ナリ

出發二先チ水野服部連名ニテ抵抗者ニ對シ兵力ヲ用フル件ト着島ノ節祝砲ヲ行フ件トヲ上申シ前者 許可セラレ祝砲ノ件ハ見合セ候様トノ指令ヲ受ク

兩人八文久元年十二月三日品川二テ咸臨丸二乘込三四日品川出帆浦賀二入り七日同發十九日夕父島二

又兩人連名ニテ運送船一隻差遣ヲ請ヒ干秋丸ヲ隨件セシムへキ許可ヲ得タリ

到着ス

父島在留人此ノ時三十六人家數十九軒ニシテ內ニ三十二年前三乙島(サンドキッチ) 1 セーボ レモアリ又英國人ホートン及ウエブノ兩人下共二在留民取締ヲ行フ水野筑後守 3 リ渡 來 セ ハ亜 ルナ

國 書記官 7: 12 1 メンヨリセーボレ宛ノ書翰ヲ携へ居リ之ヲ交付シ在住民ヲ賑 ス

二月父島ノ調査ヲ終リ三月十日母島ニ赴ク母島ニモ英人在住ス復之ヲ賑

父島在住者訊問 二於テセ 水 レノ此島二渡リシハ三乙島ヨリ仕立テ此島ヲ目的ニ派遣セル船ニ英國

人ニシテセー 三乙島コンシュ ボレハ初メ三乙島ョリ仕立ノ交易船 12 チャルタン氏ト米國商人トムシムト同行セルコトカ知ラレ其ノ時ノ移住者 ニテ島々ヲ遍訪シ最後 = 此 ノ島ニ落付 + コンモドル、

ベリーノ來島セシトキ米國々旗ヲ預リ所持スルコトナト知ラレタリ

七1 力 四 五 年來三五 レ取調中各國船 艘 二減 ノ來航ノ事ノ內彼ノ渡來初度ノ頃、捕鯨船ノ客泊 七 ルコ トラ申立又軍艦ハ千八百二十七年ノ英艦プロ ス iv ツソムノ後十八年前英國軍 モノ年 マ三四 --艘 アリシ

艦渡來シ其ノ乘員十四人此ノ島ニ逃レ住居シ又十二年前ニモニ橋ノ軍艦渡來セシ トア

此後群島總體ノ名ヲ定ムルコト左ノ如シ(於母島)

水野筑後守各村ノ無名ナリショ大村、

與村、

洲崎村ト定メ書面

一認

メセ

1

水

V

ニ交付ス

總名小笠原ト相唱候右、三百年程已前名付置候儀ニ有之候其内ニセー ボレ罷在候島ハ當島ヨリ廣ク候

間父島ト名付當島ハ其次ニ付母島ト唱へ候問左樣可心得候

當島近傍二散布有之候五島八姉島妹島姪島平島向島上致置候間左樣可心得候

此ノ時小笠原島内 父島 則書付ニ致置候間可相渡候

交島ノ内 交島ノ内 交島 母島

洲崎村 袋澤村 奥村 大村

母島ノ内

山 姉 島 姪島 平島 向島 沖村 同港 片港 北村 同港 南浦 西浦

右ノ通書付ニ致相渡一應萬次郎(中濱)ヲ以テ讀聞ケル

矢田堀景藏ヲ御軍艦頭取トシテ朝陽丸派遣ニ決シ同艦ハ二年二月二十日品川出帆 十二日浦賀着三月朔日同所出帆三日豆州田子ノ浦着同九日同所出帆十七日小笠原島入泊同月二十四日 此後干秋丸難風ヲ避ケテ田子ノ浦ニ碇泊シタ ル儘久シク出帆 ス ル能 ハス依テ蒸汽代船仕立テノ議起リ 神奈川ニ寄泊シ同二

出帆四月十一日江戸ニ歸着セリ

然ルニ此後移民輸送ノ命アリ同年六月再度同艦ヲ小笠原島ニ派遣ス

朝陽丸再度ノ小笠原島行ニハ伴鐵太郎艦長タリ六月二十六日父島二見港ニ至ル

(二見港及扇ケ浦ノ名此ノ行ニ於テ初テ見ユ)

水野筑後守及服部歸一二人ノ建白二依リ日本領土タル事ヲ宣スル碑ヲ扇ケ浦ニ建ツ(文句和文)

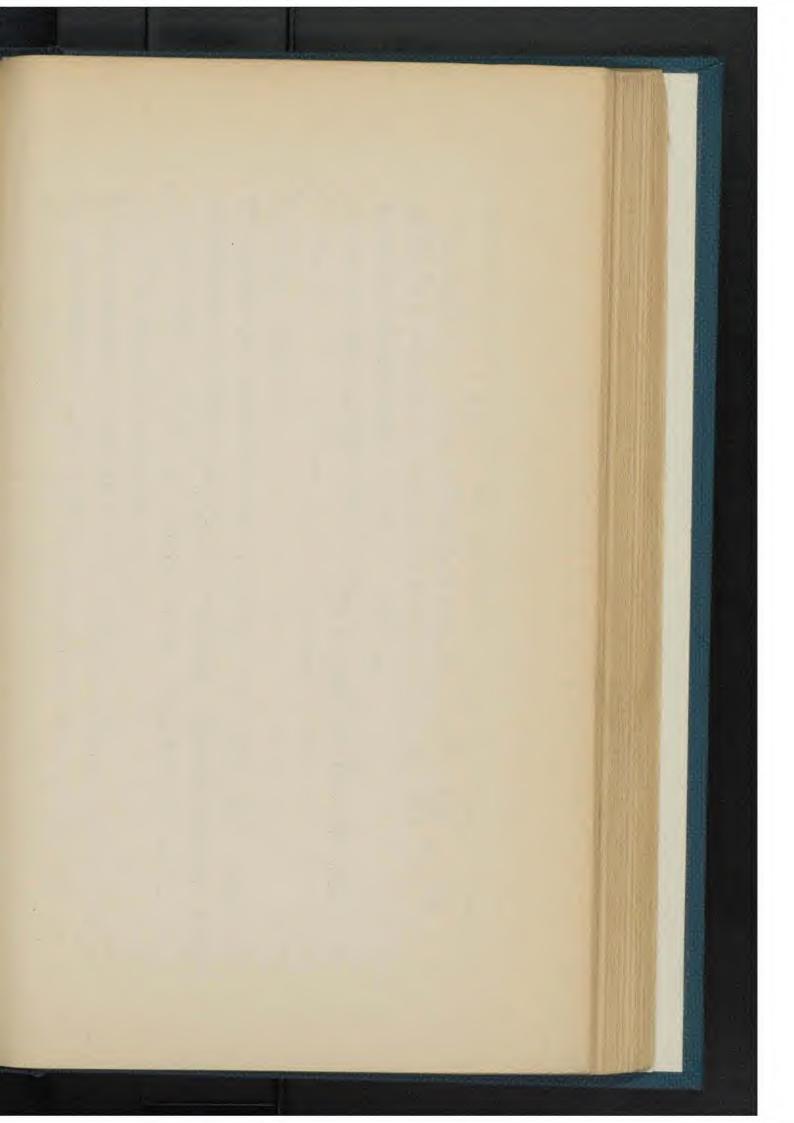
寄港ス 小笠原島港規則ヲ公布シ文久二年八月先ッ之ヲ添ヘテ米利堅公使ニ小笠原島開拓 ル外國船 二對 スル便宜等ノ設備ヲ通告シ次テ阿蘭陀、 魯西亞、幸漏生、 葡萄牙、佛蘭西ノ外交 ノ處置ト共ニ 同島

官二及ホセリ

明治 ノ世ト ナリテ日本人ノ小笠原島ニ移住スルモノ漸ク多ク明治十三年ニ島ハ東京府ノ所轄トナリ明

天皇陛下ノ行幸ヲ仰クニ至レリ

治十五年二至り上着外國人皆歸化シテ日本人トナリ昭和二年夏



水戸ノ快風丸到石狩川口記事

(北島志卷一第六丁拔萃)

至此地者我界以酒食則益悅以鱖魚熊皮報之其人醉中舉格相擊以爲戲卽槌擊,也川甚廣深鱖魚甚衆殆 十歲始成至是自那珂港發船六月至石狩川夷人喜我船到爭來看之男女殆千餘人皆謂從前未嘗見如許大船 元祿元年春我義公遣崎山某駕快風船至蝦夷之石狩先是義公命作大船於南部地南部津輕二侯助役前後經 抵松前以十二月得歸那珂港至公薨船壞不復修我州航海術途廢云 至妨舟楫以鱖魚百尾換米一斗二升留四十餘日至八月發船還則颶風大作船漂至北海蓋近韃靼地 方也風息

大正六年十月ノ水交社記事第百九十四號二快風船涉海記事ト 題スル一齣アリ其中ヨリ拔萃ス = F

左ノ如シ

快風丸建造費七千雨 舟大工大阪ョリ來ル

石狩川口へ航海ノ往復松前ニ客泊ス往路松前ニテ紫内人ヲ雇フ

乘員 崎山 市內御船役人、楫取二人、帆役二人、醫者一人、御目付足輕一人、押目付一人、イカリ役

一人、大工一人、舟大工、總人數六十七人

取 アンジン箱ト云者船屋形ノ上ニ矢倉ノ様ニシテ四尺四方有此ノ内ニ慈石(一尺四方) 海路 ノ繪

圖 カジ

役ニテ兩人シテ代ルー一慈石ヲ見詰 ボメテ居

御船八內二傳馬上云舟二艘入置陸 へ用候時へ此角へ乘行常へ大角ノ中ニ 置也大テンマ長サ九間櫓八丁

立小傳馬長サ六間櫓六丁立ナリ

相續親 崎山 市內十石三人扶持位用ノ事勿論天文者ナリ後十石御加增二十石二成サレ享保十年 い與力恰好二見ユル也御舟ノ事總シテ金銀入目等ニ至ル迄不**殘市**內支配也人品勝レテ能キ人ナ 以後歿ス子家督

帆 役楫取役碇役何レモ長崎或ハ大阪者ノ由格式ハ御水主小頭 ノ格ナリ

IJ

異船打拂令ノ消長

寛永十六年四月五日鎖國令ヲ布ク(寛永鎖國令ト云フ)

慶安奉書ト稱スルモノアリロク

異船カ沖ニ在ル刻リハ聊爾ニ取掛 ルコト無用ニ候

寬政三年九月一日寬永打拂令ヲ修正シテ外舶ノ來ルモノニ ハ其來意ヲ質シ漂流船ニハ薪水食料ヲ給シ

テ立退カシム iv ノ融通法ヲ設ク

訓命二日 7

iv

總テ異國船漂着致候ハ、何レニモ手當イタシ先ツ船具ハ取上ケ置キ長崎表へ差遣シ候儀夫々根伺 キ事二候以來異國船ヲ見掛ケ候ハ、早々手當ノ人數等ヲ差配リ先ッ見掛リハ事ガマシク無キ體

異國 取計 -ノ者い宗門ノ所モ相分ラス候ニ付キ番人ノ外い見物等 E シ筆 リ申ササ 相用ヒ 右 船 筋 談役或い見分ノ者共ヲ出シ樣子ヲ相試シ可申候若シ拒ミ候趣 7 一候間 候 計策ラ以テナリトモ繁キ置キ船具等ラモ ル様 モ勝手次第 彼船~乘移 = 致 3/ 置 ノ事ニ候筆談等モ テ早 り迅速二相働き 々相伺 ハラ 12 相訓 打捨 ヘク 二年 候若 又、見分等ラ 致シ召捕 ・シ異議 取上ケ置 7 禁セ = ~ 9 及比候小、 候儀 キ人ヲハ上陸 -w 拒 ~ モ尤 -Va = 17 サル 候 候 毛 ۸ در 捕へ 相成 趣 船ヲ イ TAME MOVED THE THE 候 少 ~ ニキ申サ サ ク候勿論 E 人ヲ セ 成 1V タケ穏ニ 毛 大筒火 打碎 " 附置 候

寬政四年十一月マタ命令シテ日ク

達シ 領等 H 國 有之候間右様ノ 候儀 一船漂流 へモ 書付 爺テ手答ヲ = テ差出 ノ節 候間氣 ノ取計方ニ付キ去亥年(寛政三年) サ 節 々手配イタシ置候船數人數其外大筒 iv 申 ヘク候尤モ不時ニ御役人御用序等 合 早速人數ヲ差出シ手配備ノ様子、見分ヲ受ケ候様ニ致サルヘク候 也 置 カル へク候前以テ規定致置候テ然ル 相達シ候趣 ノ節ニ相越シ ノ有無並 25 -即 丰 手配 四四 筋 チ前 ノ心得方隣 23 ノ様子 相 文 伺 訓令 23 7 w 見分イ 領 キ旨 申 飯 合ノ 内 3/ 趣等 175 1/1 相

寬政九年十一月寬政三年ノ令ラ一層穩便化スル令ラ下ス所謂寬政令是ナリ 異國船漂着 卒爾ナル取計ラ 小漂着候テモ海上へ向と候テハ石火矢ヲ打チ候ナラハシノ趣ニ相聞へ候 3 リ事 至リ候節 助 力 ヲ好ミ ノ次第 ノ節ノ取計方い寛政三年委細 手荒 格別 ハ先頃相達シ候通リニ候問人數等差越ノ儀ハ猾又心懸ケ置 此方ョリ仕出シ候儀ニ念入レラレ ノ儀 ノ働ヲ仕出シ候テハ宜シカラス候先方 先 ツ 23 成)V ヘキタケ計策ラ以テナリトモ繋留 _ 相達シ置き候 ヘク候 且又全ク海邊 ヨリ重々不法 趣 28 勿論 二候 メ置テ注進可有之候總テ異國船 ノ次第 へトモ若シ心得違に候テ此方 100 カル ~ 所 領 事故モ ŀ ヘク候 23 相決シ 無之而 無キニ 止ラ 17 F 得 テ 右 サ E 乘 近 w 事 飯 3

日

文化三年一月二十六日諸藩 = 命シ露船ノ上陸ラ 禁シ懇諭 スル Æ 命ヲ用 ヒサレ ハ之ヲ打排 ハシム之ヲ文

化合。 云フ 日 7

文化合

年與 先達 寄 差配り先の見分ノ者ヲ差出シ篤ト様子ヲ相糺シ彌々オロシャ船ニ相違ナク相聞へ候 12 乘 テオロ 歌リ 置キタル信牌モ之ヲ取上ケ歸帆 3/ 何 中船長崎二渡來イタシ通商等ノ儀ヲ相願ヒ候へトモ取用ヒ難キ 1 浦方ニ 船ラ 繋キ 申問敷 イタ 毛 サセ候 ノニモ無之候間異國船ト見受ケ候ハ、手當イタシ人數等 = 付 + 再渡 100 致 ス問敷 候 ~ j. 筋ニ付き其旨 æ 此 い、能 後萬 漂流 心中節 申 諭 二事 シ先

文政八年天文方高橋作左衛門ノ建議ヲ用ヒ二月十五日異國船打 ij 成 3 サ 直 候節 歸 セ 14 歸帆 5 帆 歸 穩一 八諸事寬政三亥年異國船 1 帆 成 13 歸帆 ッ難 サ -50 テハ番船ヲ附置 ス 異議 丰 1 次第 以 = 3 及ヒ 候樣 一候 候 ハ、相應ニ \equiv 1 キ見物等ヲモ相禁 H 八儀二 相 時宜 計 候尤モ實 付 = 其品ヲ與 態シ伺と、 キ相達シ候趣 -(歸帆 難風 シ其段早々注進アル = 1 及ハス打拂に其旨 quart Name any 遭 -イタ 准シ取計 10 サ 漂流 拂 セヘク E イタシ候様子ニテ食物薪水等ニ乏ク 7 上可申 嚴命ス之ヲ文政攘 候且ツ ヘク候尤 9 候 申 聞 何程相 E 再應渝 7 候 願 右 候 斥。 體 3/ テ 候 令。 ノ始末ニ至 Æ テモ 上陸

相

拒

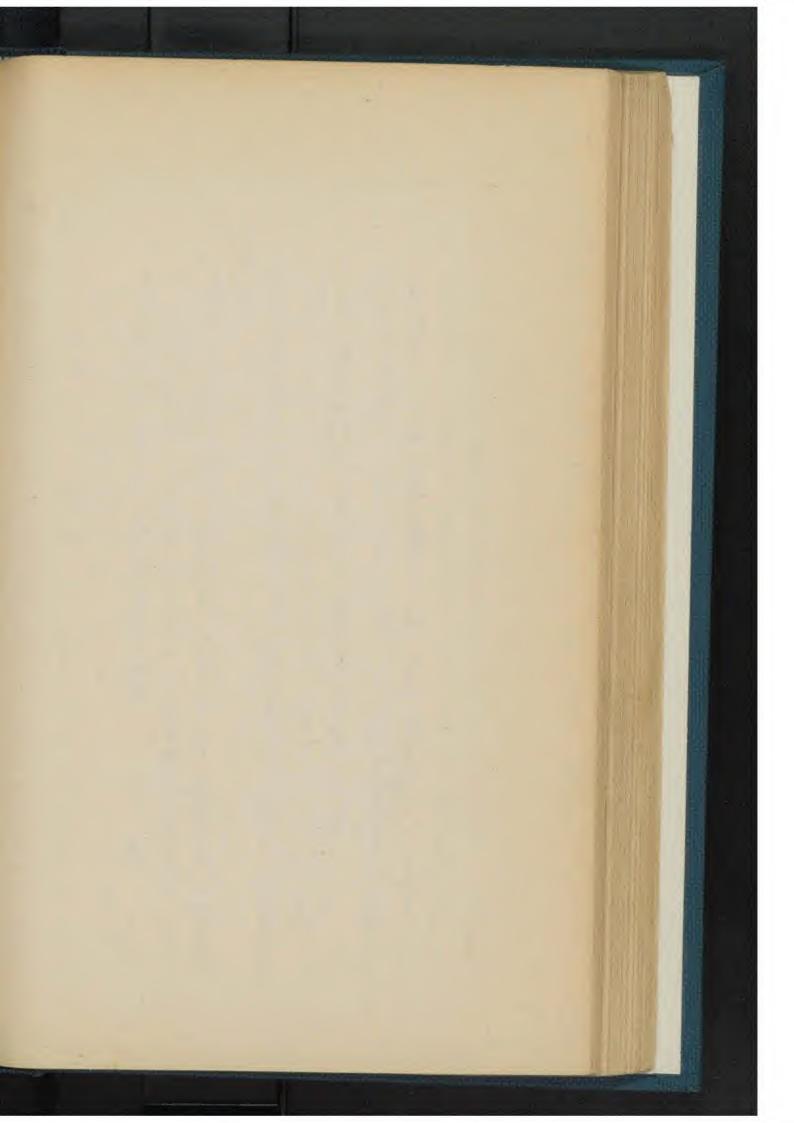
ハ致

要ニ日 等 ノ船ヲ萬 體 尤モ唐朝鮮琉 77 1 * 9 又 見損シ打誤リ候ト = 限ラス 球ナト 南蠻西 か船形人物 洋 モ御察度い有之間敷候間二 ノ儀 モ相 20.76 御禁制 分ル ヘク候 1% IV 邪 へト 教 1 國 -10 阿蘭陀船 念ナク打排ヒョ心掛ケ(以下省略) = 候 ~ い有無い 八見分 = > 及、 35 E 相成 ス・ 圖* 1 泵 = 1 1 1 打、 ス 排、 ト云フ其 ~ Es ク右

中

然ル w 7-又打排 二其後天保八年二至リ我源民ヲ載 1 ノ厄ニ遭 シュ メ空シク墺門ニ引返ヘシ我漂民ノ一人ヨリ愁訴ノ書狀幕府ニ傳ハリ深ク セ 來リタ w 米船 E y ソン號ヲ浦賀ニテ 打排 E 其 退 テ 鹿兒島二人 後

水令ト云フ



四

露人ノ干島諸島來侵 北島志卷一 (原文漢文)

本國 撫 且 明 明和六年露人伊畔 人皆怨ム後夷衆ヲ拉へ國ニ歸ラント欲ス夷長逃ケ去ル乃チ衆ヲ縛シ鍋釜ヲ碎キ船ヲ發 ニ去レ 3/ 和二年露人延遲々(イハン、 日ク露人ハ 二得タリ今彼レノ縛シテ去リタル島人ヲ送リ還へス而シテ其ノ半數ヲホ ヤニ至リ島中ノ事狀ヲ問フ歸ッテ得撫島ニ至リ 將來島人下交通セントス嫌猜ノ心ナキヲ要ス我ハ是ヨリ得無二赴キ (イハン、 亦 v 1.7 シヒ エンチ、、 チ、 テカノフ、 ト訓ス) ト訓ス) 始 テラッ 留ル 來リ云フ延遲 3 コト三歳延遲々性暴屢々夷 ヨワ、 シモシリ二島ニ至リ明 13 や暴ノ故ヲ以 モシリ島ニ 臘虎ヲ捕 シテ去ル 留メアリト テ郎 ヘントテ得 人ヲ虐ケ夷 年擇 罪

是 抗 フ夷 ョリ先キ露ノ大船ワニノフニ入泊又伊畔之ニ入リ越年シ明春小艇ニ駕シテ本國ニ歸レリ 命セハ捕虜ト為サント脅シ勢敵スヘカラス夷長等辛ウシテ逃ケ去リシニ露人尚モ之ヲ追 長得撫 ニ至リ臘虎ヲ 捕 シニ露人大衆來リテ夷長ニ 迫り獲ル 所ノ臘 虎 八露國 三取リ上 此 と銃 ノ夏エト ヘク君

露人ノ來ル必ス前年ノ怨ヲ報イント欲スルナリ然レトモ我今兵力大敵ニ當ルニ

スト乃チ船ヲ發シテ擇捉ニ歸ル此ノ年海上颶風多シ夷人思フ露人ノ得撫ニ碇泊

安永元年蝦夷得撫ニ獵ス露人來ラス二年又獵ス露ノ巨艦

ヲ見

12

蝦夷戰

2

1

欲

ス露人進マス夷

人思フ

シテ還

川

足ラスー

光ッ

引揚ケ

テ後圖

ヲ爲

スニ

如为

テ夷長二人ヲ 榖 ス -至 y

ヲ見 延遲 射獵 敵 = 於是擇捉 テ 臨三穴居スルラ發見シ急襲シテ露ノ男女數十人ヲ擊殺ス露人散走争フテ大船ヲ引キ 令以 ス][版 何 追 强盛ナ 瓶チ 虎ヲ 7 而シテ露人又銃ヲ發シ之ヲ劫カシ盡ク夷人携行スル所ノ家財重實ヲ 冰數年 七人ヲ誘殺ス更ニ和爾腦ニ在ル大衆ヲ殺シ盡サスンハ宿憤ヲ霾スヲ 以 ノ夷人相議シテ日ク露人來リテ我島嶼ニ據リ非道此ノ如 殺セト 捕 3/ 刀槍毒矢ョ以テ之ニ逼リ斬獲無算露人ノ脱スルヲ得タルモノ僅ニ七人夷人大捷 ルヲ十分ニ 將 へテ内地 ノ不覺二夷人大二怒リー大軍議ヲ開キ毒矢刀槍諸兵器ヲ作リ 來 遂二得撫二至リ露人八人ヲ誘殺ス露人多ク磨勘留島 ノ生計ラ營マンヤト奮然トシテ羅處和夷長ト衆ラ率 三交易シ生業ト爲スモノ一朝露人ノ暴舉二遭ヒ之ヲ取リ上ケラル 戒心シ 兵器毒矢ヲ増 3 西浦 ヨリ山 7 越工 和 キー 酮 腦 +船 _ 至 在 = w 至リシニ露人 掠奪 3 ,13 ニ駕シテ得 怨憤 得スト之ニ 其ノ衆ニ令シテ 聞 丰 ノ至 乃 海 チ リナ 撫 向 海 28 F 山二 フニ 至リ ツ且 如 瑜 E 夷人勝 傍ヒ 當リ ク露 臘 事 7 テ島 アリ 我等 虎

w

E

1

必ス

難

船

3/

12

IV

ナラン

1-

明年復

得

撫

獵

セシニ

露

ノ巨

船

果シテ破壞シ露人家屋ヲ海濱ニ

造り留

迎へ鳥銃ヲ携へス

謂テロク我蝦夷ト怨隙

アル

=

アラ

ス

1)

七

1

六年露 僧徒ヲ 侵奪ス Por 含テ新 7 ス カ 皆 住 故 張 加 N 耶 三露 至ラサルナシ得無 遭 jν 蓋シ 羅 蘇 1 圖 所 巨 處和以 夷 如 1 船 人弓槍ヲ構 極 改 ノ諸島ニハ皆酋長ヲ置キ狐皮ノ税 リ好ヲ結 法ナリ諸島及人名二改メ命ス シ邪教ヲ弘ム一男必ス一婦ナリ拜 和 北諸 メテ我屬島 北 酮 腦 島 = 命 = E ョッ皆 通商 至 ス へ逼り看ルニ露人出 ョリ以北 リ留 N -命 七 E 一二ノ紀號ヲ命シ得無 リ生生 ノ延享寛延 ントス乃チ夷人ニ ス ノ諸島皆改メテ名ラ命シ露 n ス露人乃 Æ 1 其 プ月間 1V 二露語ヲ以テス是ヨリ露人其ノ徒ヲ遺 チ 何 跪 此 ノ事ニ ヲ定ム一男必ス一皮トス或ハ臘虎 ノ歳 煙草及食物ヲ ノ地ニ --月 必ス 係り羅處和以南 至リ蟬腦オ ナ 徒リ住 IV. 額 70 7 ノ隷屬 1. 贈リ以テ其ノ意ヲ悦適 ス露人二島 的 胸 1-知 (センナッ 二點指 ス 1. ナス我國既二遠略ヲ以 ノ改名 1V 能 ノ蝦夷 ハス ス 兩 サト 明和年 唯夷 肩ニ 1 ノ皮ヲ輸 ノ仇殺ヲ問 鐵器ヲ 人ノ言ヲ ハシ累々相踵 ŀ 間 云フ ノ事 掛 ス N Æ 1 以テ之ヲ考 テ念ト為 35 17 朝 则 1 爲スへキ モ 13 チ 欺 禮 7 其 七 y 拜

栃內日 w 數名ヲ以テス 露人ノ千島列島ヲ侵略スルヤ占守阿賴度幌筵ト 數へ來リテ國後二至リ二十ヲ算 1

云フ

力

造り始 理又得撫三至 ルモノハ之ヲ許スヘシト然レトモ此ノ時羅處和ハ既二露 食ヲ與ヘテ之ヲ還ラシム松前又羅處和人ニ諭シテ日ク是後汝等來リテ交易セントセム露人ト共 歸 安永七年露入迷的理(ヘントウセ、メテリヤ、ウコヘッ、ト訓ス)羅處人ヲ通譯トシ東蝦夷機答布 IJ 國スヘシ明年重ネテ來り指揮ヲ受ケヨ迷的理乃チ歸國シ明春二至リ復來リテ土物ヲ獻シ互市ヲ允サ コトラ請ラ松前日ク外國交易ハ蝦夷ノ能ク辨スル所ニ非ラス宜ク長崎ニ至リテ請フヘシト テ歸國 プ)ニ來リ上疏シテ通信交易ヲ請フ適マ松前ノ士新井田大八稅舖ニ在リ告ケテ日ク今年ハ速ニ スルコトヲ得タリ リ船ヲ 和邇腦ニ繫ク明年大地震アリ海嘯ヲ伴ヒ其船ヲ飄シテ山上ニ打揚ク ノ脅制 スル所トナリ獨り來ル = 迷的 ト能 理 ハス迷的 小 73 10 チ糧 サ

之ヲ視レハ則チ船空フシテ人無シ唯一屍アリ斫穀セラレタル狀アリ鹿屬木綿金器硝藥等ノ露貨堆積 子年少ニシテオアルヲ以テ命シテ一船師ト為シ七十人ヲ率中巨艦ニ駕シ日本ニ向ハシム海路中殺サレ 先是延享元年(千七百四十四年)陸奧南部ノ商船風ニ遭ヒ漂フテ劉羅斯國 ノ事ナリ)其ノ生存者勝左衞門利八等五人露人ノ撫恤ヲ受クルコト甚タ厚ク勝左衞門ニ偽官ヲ授ク其 船皆死ス何人ノ爲ス所タルヲ知ラス其船漂フテ得無ノ阿答吐葬 (アタットイ) ニ至ル 三至リ(佐井 適マ蝦夷往 ノ竹内徳兵衛

テ日 蝦夷意怪其 ナ 疑 7 受ケン ク國 君ナ E が臨 丰 = 1 何 1 カ ム所必ス政道アリ故二其 ヲ 故 恐レ 故 ナリ安ン 汉 其 jν ノ州船ヲ 7 ソ日 知ラ 焼キ ス當時 本 ノ統 以テ迹ヲ滅ス後夷人遠島ニ到ル者アリ之ヲ露人ニ告ク露人 轄 夷中政未々嚴ナラス夷人乃其貨物ヲ奪ヒ又露人ョリ後日殺奪 = ノ人民匪 屈 ス 1-法ノ事ヲ肯テ為サス然ルニ今此 云 ,05 1 ヤ今進ンテ 其 1 地 7 開 拓 ノ事 也 28 是其 T w ノ島 لأفر 其 大ニ ノ主 政 道

天明五年迷的理重ネテ來リ山上ノ大船ヲ引卸サントシタルモ克ハ

ス

ナ

露人是

3

リ屢々な言アリキト云

還 計 天 7 逆 盡 近 七 踰 へス佐 ス 歲 3/ 明 風 ム其 高 五 テ究問 工 秋赤 遭 年勘定奉行 宇 H 藤 兒婦島 E ノ訓令中 軌 行 留 起 3/ 地 信 b 23 w 東部 理 稱 = وفر = 至 ヲ審ニ 松本秀持命ラ受ケ山 西 1-ス ニ日ク且ツ聞ク松前獻スル 數日 部二 w リ還リ具 厚岸機答婦三 者蝦 シ要領ヲ得府ニ歸リテ逐 行ク明年 松前 夷 = ノ臣鄉導ヲ爲ス者渡海艱難ヲ言ヒ以テ之ヲ沮 -來リ 加 模沙斯 行キ海ヲ踰 高品軌起塗 商 買 口 高品 シ往 加等 所ノ玉 女其 佐藤行信皆川秀道青島軌起菴原宜方ヲ遺 ノ諸島嶼安永年間 ニ越土呂府ニ至リ露人伊 工 テ久奈志理 一上聞スヘシ高品等乃チ蝦夷ニ至リ東西部ヲ ノ物産ラ 錦鷲初い是異域出ス所遠ク 買フ恐クハ外國 = 至リ越土呂府字見婦諸島 3 IJ 露 如 -蠶食侵淫 欲 往 ム已ムヲ得スシテ松前 7 狹 蝦夷 37 ノ路アラン セ 工 ラ E 3 ントシ v IJ 7 探ラ 至 遂 等ヲ召見 宜 蝦夷ヲ in 宇兒 加 3 分 7 フ 巡 ス 欲 力 w 海 引

胡 寬光ヲ遣ハシ北蝦夷ニ至リ商館ヲ建テ地方ヲ視察セシム西ハ孤潭突 及フノ狀ヲ言上ス然レトモ此時松本秀持既ニ 3 コ)ニ至リテ還 點ケラレ 桑原盛員之二代リ事遂二寝八寬永三年松前高橋 ヘコタント シン ニ至リ東 志禮杜

寬政四年幕府最上常矩ヲ遣ハシ北蝦夷ニ至ラシメ西ハ嶇峻內 ブッシニ至リテ還 in (クシュンナイ) 二至り東 ٧٨ 腾物

ルヲ以テ略ス) 寬政四年竦苦滿 (ラックマン)伊勢ノ白子ノ源民幸太夫磯吉ヲ送リ根諸(ネモロ)ニ來ル (諸書三詳

己 12 寬政七年露人滑失力 ŧ 久奈志理越土呂府ノ蝦夷ト交易ス當初松前令ヲ下シテ之ヲ却ケス故ニ虜人偃然自得シ宇兒 カ コトラ圖 有ト為シ任意漁獵シ放縱憚ルナシ然シテ滑失力性暴虐ニシテ人心服セス往々小舟ニ駕シテ逃レ去 ル船稍損傷シ用ニ堪へス滑失力乃チ其ノ徒三十三人ト留リ居リ網ヲ以テ臘虎ヲ捕へ厚岸 (ヘントウセ、ワシリ、コンネニチ)復字兒婦ニ來リ山上ノ大船ヲ引キ ヲ視 卸 根

八年秋八月廣艦 ョ以テ大木ヲ斬伐ス松前高橋寬光加藤肩吾等ヲ遣ハシ往テ見セシム廣言フ是レ暗 厄俚 亞 一隻蝦夷ノ阿部田ニ至リ山ニ登ルモノ三十人布袋ヲ張リテ屋ト為シ 留 N 國 人貌刺東 九日斧斤

12

1

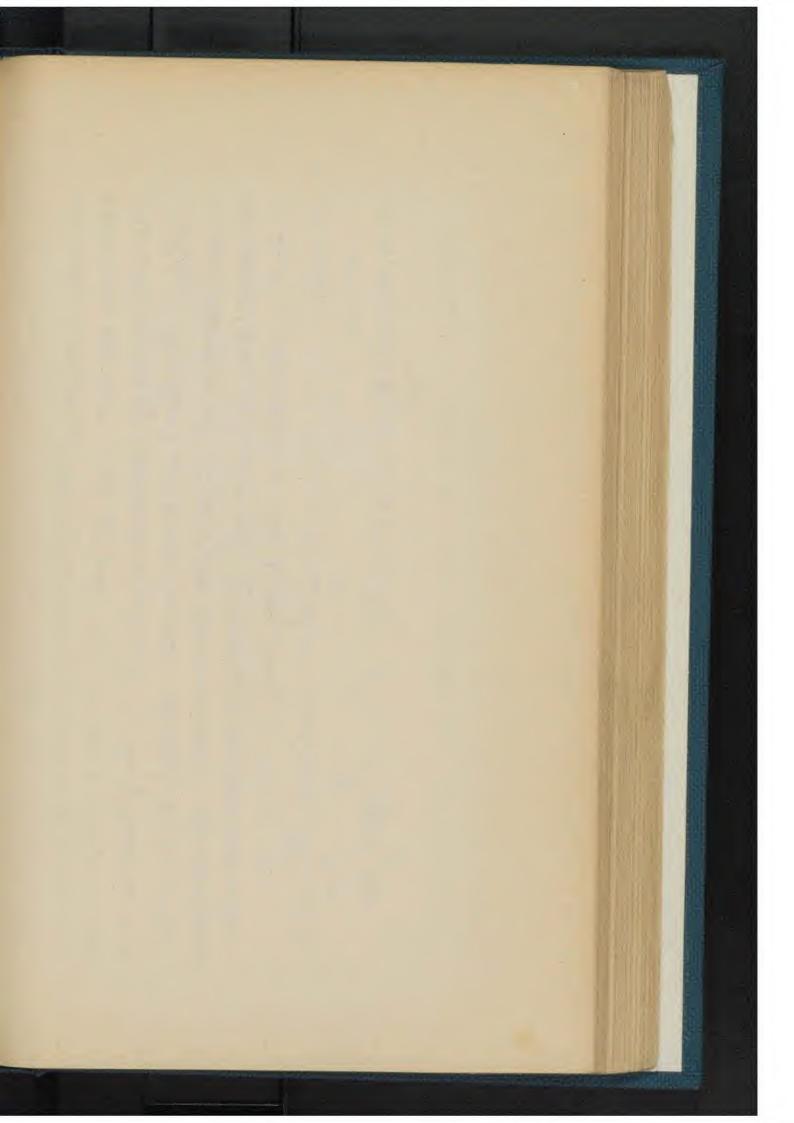
遭と

此二至

ル請フ薪

水ラ賜

幕府 胤 北 夷 及羽太正養又同ク警衞ノ命ヲ受ク閣老戶田氏教察政立花種周 胤等 明年 大河 地 シレト 露國 1 情狀ヲ 秋貌刺東 內政壽三 松前ニ至リ政壽ハ東蝦夷 カ = 蝦夷 = 申 至ルマテト及諸島嶼ヲ收メ七年ヲ限リ幕府 伯 告ス幕議松平忠明ヲ 橋成方等ヲ造 ノ属島ヲ蠶 ノ船復繪鞆 西見ョリ 角利勿爾尼亞ヲ經廣東ニ赴カント欲シ颶風ニ 食 ********* 至リ薪水ヲ請フ松前其ノ重ネテ來ル勿レト ス ション w ノシ 蝦夷地 E 以テ蝦 松前 ヤマ ニニ至リ成 方ヲ巡察セシム石川忠房江戶二在リテ夷地ヲ 23 藩 夷 八地警衙 小二兵寡キヲ以テカ 方い西蝦夷 ノ事ヲ管セ ノ措置 其 = ノ事ヲ總司ス東蝦夷 3/ ノ宗野ニ至 制 從 ム未タ幾クナラス フ ス w = 能 諭シ之ヲ ŀ ル三人冬ニ ١٠ ŀ サ ス w ヲ 却 ケ還 3/ 聞 地 三至リ 措置 キ寛 ノ南 テ忠房政壽成方 歸 政十年渡 7. が浦 w 府 事ヲ 河 具



附

錄

五.

及露

北

米領 第

漂

流

者

覽 表

密 考 書

記

事

Nordenskiold

漂着者17人中二人ノ外皆殺サル Sasa Gonsa ハ露都ニ送ラル

最上德內/蝦夷章紙 環海異開

1200石船ニテ水夫16人ト共ニ漂流者皆露國ニ死ス徳兵衞ノ墓ハ Ilkutsk ニ在リ豚右衞門利八長松伊兵衞長助等夫々露國ノ役人

源民御鷺ノ記

参州自子村ノ彦兵衞持船神昌丸ニテ栗組十七人ト共ニ鳥羽ヲ發シ駿河沖ニテ暴風ニ逢フカタリナ女帝謁ヲ賜フ時ニ生存者五人幸太夫磯喜小市新藤中藤南南三十月末

Were thing , a

幸太夫磯吉小市新藏庄殿内前三人日本=送ラル 若宮丸八百石船石卷ヨリ江戸=至ラントシテ流サル津太夫外十五人内六人露帝=謁ス津太夫保平左平太十郎歸國ヲ乞ヒ許サレ他二人ハ露國=留マラント乞フ此ノ時ノ通鯖ハ新藏也

環海異間

1812/冬ラリコルドト共ニ勘察加ニ送り翌十三年リコルドト共ニ國後ニ來リゴローニン釋放ノ事ヲ斡旋シ功ヲ奏ス而シテ嘉兵衞自身モ放タレテ日本ニ難リ天年ヲ終フ時ニ文政10年59

Voyage of Morrison

太平洋ニテ難酸セシ船夫三人クインシャーロット島ニ漂到セシモノ米國土人ノ為メニ捕ヘラレ幸ニコロンビャ河口ノ英國毛皮會社員ニ贖ハル英國ヲ經テ澳門ニ送ラレ此處ニテ更ニヒリッピン諸島ニテ難船セシ我漂民四人ト會ス澳門ノ一米國商館ハ新ニ日本ト通商ヲ開クノ具ニンヲ利用セントシ1837 Morrison 號ラテ日本ニ送リ來ル Morrison 號ハ浦賀及鹿兄島ニテ打拂ハレ空シク漂民ヲ載セテ引揚ク

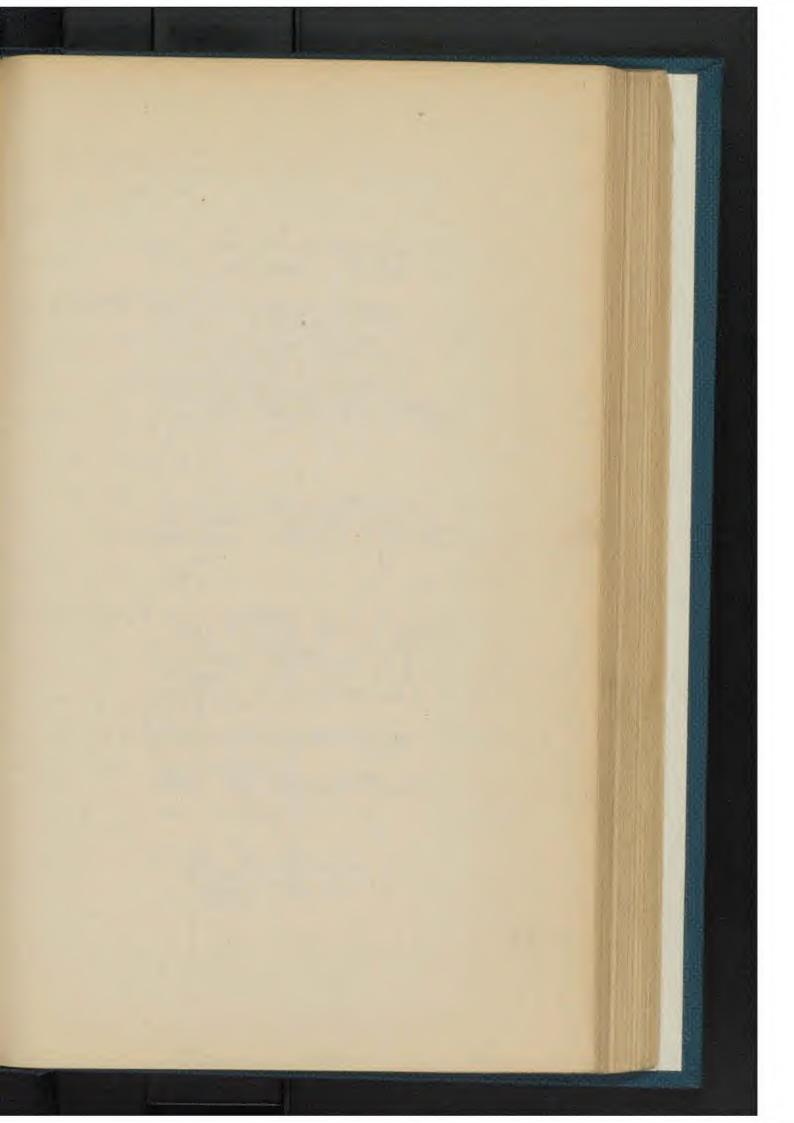
萬次郎歸朝ノ翌嘉永六年從公儀被召出新規御抱入御普請役格トナル高二十俵二人扶持

弘化二年米ノ捕鯨船 Mercator 日本北海ニテナ籔人ノ漂民ヲ教ヒ之ヲ送リテ浦賀ニ來ル幕府特例ヲ以テ之ヲ受取ル

續南蠻廣記 p. 223 ニ 目 ク

- 1744/竹内徳兵衞以前ニ露領ニ日本人ノ漂着セルモノ三回アリ 第一回ハ元禄ノ末年
- ・第二回ハ寰永年中 第三回ハ享保中 三回トモ日本ノ記録ニ缺ケテ居ル

	住 所	漂	耆	歸	朝	
人 名		何處	年	年	何 便	
Sasa & Gonsa	隆摩	勘察加東岸	1729		歸朝者無シ	
竹內德兵衞	佐井港	勘察加	1744		皆露國ニ終ル	
幸太夫(神昌丸)	勢州龜山領 南若松村	アリウシヤン群島中	1782	1792	Adam Luxmann	
津太夫(若宮丸)	寒風澤	アミシッカアリウシャン群島中	1793	1804	Resanoff	
繼右衞門(慶祥丸)		オンテレーツケ	1804	1806	千島列島ヲ經	
五郎次 (擇捉番人)		÷	1807	1812	Ricord	
高田屋嘉兵衙	兵庫	國後沖ニテリコルドニ揃ハ	1812	1813	Ricord	
喜三右衞門(永壽丸)		JL Mu	1813	1816		
長右衞門(督乘丸)			1815	1816		
壽三郎		米國西岸	1831	1837	Morrison	
			1			
中濱萬灰郎	土佐ノ漁師	米國	1841	1852	米船	
菜		日本北海	1845	1845	米ノ捕鯨船 Mercator	
紀州長助		米國	1850			
				,		



◇ベルリ艦隊訪日遠洋航海行動表(有終十五年十月號)

本表はベルリ提督東洋視察報告書第一卷を摘譯し、之を表式に作爲せしものなり。(一五、八、二)

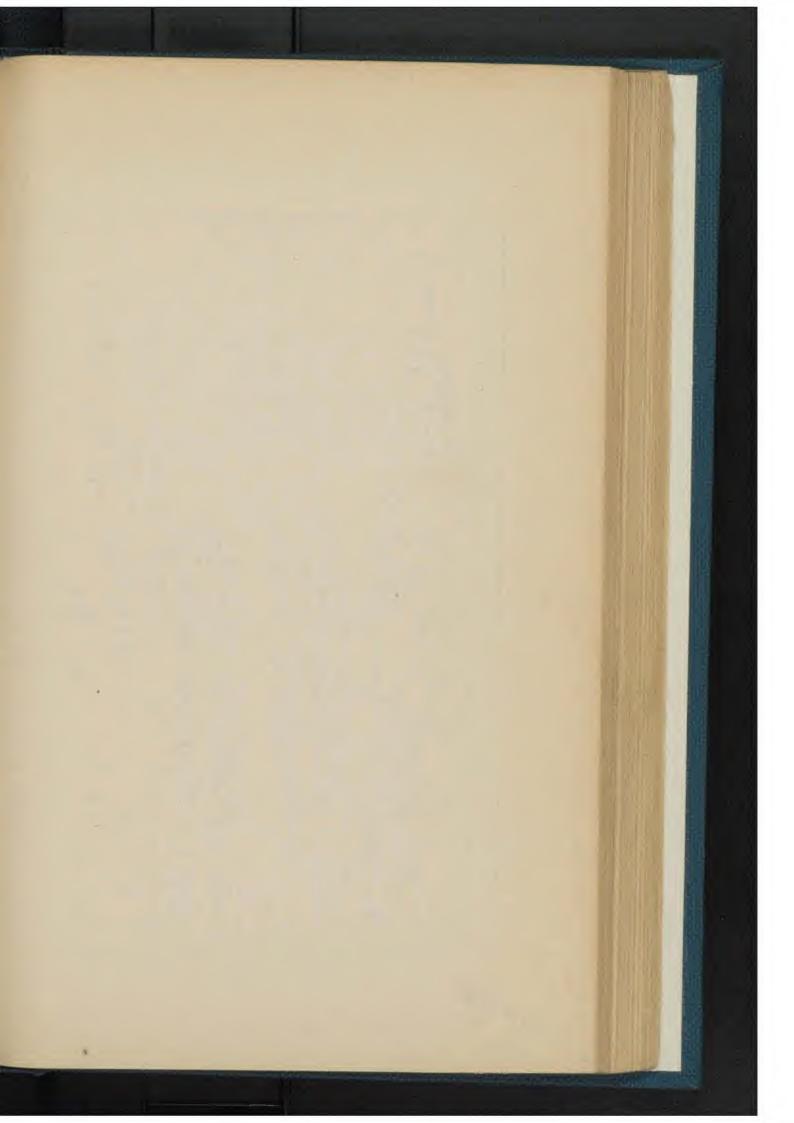
陸軍步兵大佐 竹 內 東 一 郎

旗艦ミシシツピー號に座乘一八五二年十一月二十四日ノーフオーク軍港(チェサクピーク灣內)發

香	新	セ	七一	ケート	セント	マデ	1000 N
	嘉	イ	リシャ	プタ	ントヘレナ	イラ	過
2011:	坡	P	ス(佛	プタウン	ナ(英	葡萄額	地
港	效				1853		着
四	=	Ξ		_	年一	1	年
,	三五五	100	7	三四四	0	-	月日
七不不	II.			1-1			發
45	Ξ	三、		=	-		年月
明	二元	五	三八	Ξ		五	H
東在留米國民を保護す。			ボーハタン及アレガニー號道及合除す。		ナポレオンの英魂を形す。	碇泊中海軍卿へ意見具中をなす。	記
て、一隻宛交代して、廣							游

-										
那					节申	久	浦	琉	1:	澳
		御		太	奈	里				
		臺場		平の	Ш	濱	-	球		
7,177		(Z)		ね		上		那		門金
靭		土言		U	神	陸	賀	翘	海	(福)
		擔ぎ		5		一七正八月嘉四三一五九永				不
七、二五	\$	た。	カ	をさ		年五三日六 前年年西年	七	六	五	
Fi.	1	方き	2	ま		七、リ大一六	八	六二六	[75]	明
	難	PE I	72	す						
八	有い	飯電	四は	蒸汽	七			t	五.	四
	***	À	V	船	七				-t	二元
サラ		7	~	Î	龍嘉測ペ		ツ那ササペプ覇	日七那國楊 那。顧民子	に香	通譯
h 1)*	:	三百	夜も	喜撰)	を永量ル し六すリ て年。國		ラスルラ田	别分碇保江	で海に渡る	障官ウ
を居つ	1	٤	和		工八 書 事月 操		ガハのをに	着隊中のに 。はサ伐て	をサ	イリ
留民	難	五元	5		を幕皇監府の		プナゐすり	六ス上給 月ケ海炭	きト悉か	アム
保護の	有い	十	11		督品 前せ川 後		マミる 族スシ艦 艦	九ハをの 日ン警傷 發ナ備三	()	博士
の抵上	4		ず		しに補む砲質		以シ隊 を 上ツは サ	六 後日	すマ	を薬
海に					・盛 を を は		はビ左ス帆1のケ	月サ競假 十ラす泊	るス及	他
に派す					急 勿 造 論		走以四 ハ 農上隻 ン	四ト の) 日が 五	サッ	しな
0					し強い		っれな ナ 走り に	二二月見	プラ	る。
					進 進 スー		0 更	港を十一	イを	サー
					の代官六		す。	信原 红	を介下に	ラト
1					官 注 郷 川		球	十八日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日	に入らし	が観めの
					太 口 郎 及		施	二派フ	しまっ	み後
					左 品 川		2	發測 マニー ス	0	殺す。
					門 沖 英 迄		てサ	十世 號三し 米	子江	0
	_	-					1			

紐		香	那	F	函	F	横	那	否
	(C.								1
	コル副リ						涪		
	官は								
育	を従っ	港	靭	田	館	H	邨	靭	港
1855	`先	着の						1854 年	-
年四二	香健はよ	月日	t	六	Iī.	回	=		八
	1 13 Tr	不明		t	一七	一八八			t
島五出	英害國し	193			-0	-	汽帆走走	帆汽走走	1854
着かり 。月以	DIL.		-17	六	六	π	除院	除除	年一
上土	ACTION OF THE PERSON		-			,		===	
元年 完べ	じの許		にボしマ	し琉下	サ語	九	八六	一七 利	[几] るクペ艦にカ量ブ
アルサリ	印可度を		てしむせ	な球田	ザ館		セ走月事我 ド艦三の全		抗ラルの派ンをリ
りは。旗	を得經		せタ ニ	航發 海前	下天		ニニナ下機ア隻一田横		之ド港き除; でを
And IC	由艦、隊		なをン、	金旗 中鑑	銀に		を川條在に	○欄マサ病	れン出行戦がバ琉 な頻發動隊港ン球 れの前にを港グ等
至り、	霊の		てサッツ	鹿を見り	以ど		小沖約を於笠に調許て	サドケ及	。訓 よ上系り備
共司	一指八年	ï	波ブラ		で順位な		原進印す會 島入後。見 にし	プアン炭	を港早せと 、残
	五を五先		福 イニ 変	島ピ	火港及を		滅、	イベミ架	へ瞥らめ門」
官族	年任一艦		腹門を	士に官称			す戸水和	上グシ成	る!の居のタ間の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の
を卸	月長十ア		巡航豪		港を		四防 親	にデッ	
るし	二ボ日ツ		居比	を	偵察		月かられた。	補レー除	一ッツ 保に獲鳥
鼓	紐卜育大	-	留鳥米を	歴せ	測量		日也	をシボ左受ントの	O O TEME
に其	時に		人 巡を 航	しめ	せし		下	ンタ製	・ 水 質が性に質
五大	一。委		保護香	港	ti		H	京サーリ	1 鳥り 盆贈ら件
なる			しつに	を			簡	にンる	领本 航隻 °再
任務を			ム 香港				を開き	艦ト	に國 期を艦度 對外 露廣隊の す相 他東は源
-) .	ie. e				8	際ン	JAN THATCHAR



濛洲 ヲ以テ弦ニ探 ノ發見ハ洋人ノ日本探檢ニ關係ナキカ 入ス 如シト雖 トモ其ノ中二三日本探檢ニ言及シタル康モア

本篇の大正三年九月刊行水交社記事ニ出テタル濠洲みやげノ一部ナル

濠洲ノ發見

傑輩 斯 ラ立テス當時歐人ノ未知地探檢ノ主目的ハ徒手黄金ヲ拾 西班牙人ハ西ヲ指シテケー = テ海外發展二從と各方面二活動シタル問 ロンプス、 w 問二當時 ダナ中途ニシテ死 出 3/ 「スパニシ、 アメリカヲ發見シテ發見熱起リワスコ、ガ、 貧弱ナリシ英國ニド アルマダ」撃滅セラレ英國 シ部下い按針タル蘭人フェ プホ ーンヲ廻リテ白露ノリマニ足溜リヲ作リ葡人ハ東ヲ指シテ瓜哇ニ根據 V 1 キ、 ニ勇敢ナル ホ 1 丰 ンス、 ルナンデス、ド、 八頭ヲ海上ニ擡が來レリ然モ西班牙ハ猶餘威ヲ保 船長 グレ メンダナハ智利ヲ發シテ太平洋ヲ探檢 ハント ガマ喜望峰ヲ超エテ印度ニ至ルノ航路開 ンフ ス 工 ルニ在リキ キロスニ後と歸國セリド、 ル、ギルバート、ラレー、等諸豪 + セ ス

之ヲ指揮 南海 二大陸アリトノ自覺ヲ有シ西王二說キテ三船ヲ得 ナートシド、キロス自ラ之ヲ指揮シニョ「アルミランタ」トシルイ、パエズ、ド、 シ三ラ「ザプラ」トナス皆六十順以下ノ小船ナリ 1603 リマラ出發セリ三船ノ名ハーラーエル

丰 IJ IJ 西人リマヲ發ス Thi シテ此時船內糧食乏シク「エルキャピタナ」及「ザプラ」ノ船內反亂起リ二船ハ歸帆ニ決シド、 レーノ沃土ノ 西 キロス、トーレスノ兩人ハリマヲ發後數月間ヲ南海ヲ航シイ 方二 載セテ米國 シラフ ルニ先チ蘭船 陸二達シ二日間沿岸ヲ航シ一良港二逢着シテ投錨シ直 サガリや島ョリ西ニ折レド、ラ、ゼント、ヘルモサ島ヲ經東經百七十度邊 ノ西岸ニ歸投 「デエイフエン」ハ セリ パンタムバタピヤラ發シニウーギニャ探檢 ンカー ニ土人ト開戦 ネー 3/ 目 ン島サ 1 途 ハレタ ヨリ w モ島

ストラリス、デル、エスピリツ、サンドヲ以テス是ゾ今ノヘブライヅ群島ヲ大陸ナリト誇稱 ロスノメキシコニ還ルや發見セシ處ヲ發表シ最終發見地ヲ大陸ナリト稱シ名ク エスピリッ、サンド島アリ群島中ノ最大島ナリ 1V シタルモ

ド、キロスの斯クシテ濠洲大陸二接着シタルニ非ルモ彼ノ名ケタルテラ、 ノ現名ヲ生三出セルモノニシテ彼ハ實ニ豫洲ノ名ノ發明者タルニ過ギズトス 才 1 ス トラリス、ノ名濠洲

此ノ際「アルミランタ」號ノトーレスハ統御ノ才アリ規律ヲ維持シ相失シタル主將ド、キロスヲ搜索 7 四ヲ 指 3/ 遂 = 帶ノ大ナル陸地ラ發見シ而シラ其ノ問ニ在ル約百浬ノ空隙二突入セリ是ラ今ノ

海峽

1-

報告シ ナ 7 F 逼 IJ ウゴ E テ南下 31 スハ其後幾多ノ困難ヲ經テマニラニ上陸セリ以上トーレスノ事蹟ハ其後久シク湮滅 1792 12 モノノ寫ヲ英人二依り發見セラレテ兹 英人マ ス 3/ 力 ガトー 1 ペン ニラヲ砲撃シ レス海峽ヲ通ラン 汉 リヤ 灣 ニスリテ其ノ東岸ニ上陸 一時之ヲ占領 トア セリッ ス = N トーレスノ名い海峽ノ名二依り長へ二 二及ど ッアリシ頃蘭船 F. セリ是レ白人ノ藻陸ヲ踏ミタル 1 レ 又 ガ書ラ西王ニ上リテ航海 「デュ 1 新 ギ 傳 初ナラン シテ w 41 ノ海岸 =

ナ iv 土人アリ船員ノ多クヲ失ヘリト 15 1 IV ウ 工 1 蘭語鴿)ノ水夫ハ土人二襲ハレ擊退セラレ多クヲ失ヘリ生存者其 1V (エゲン)ト云フ還テ報告シテ日ク廣大ナル陸地ノ大部分沙漠ナルヲ發見セリ慓悍

地

-命名

テポイ

シ

テト

I

レストハ終ニ相見ズ

35 工 1 w w 37 ヲ改メテポイント、 w 以 北 今ノ 3 トク デユイヘント名ケ船名ヲ存ス 半島ナリ後年マット、 フリ 2 ダ ース此ノ海岸ヲ測量 スルニ及ビケルウ

紀間濠 西 人ノ濠陸探檢 洲探檢ヲ續 其後行 15 ダル ÷ ハレズ西人ハ送ニ藻陸 終二其門ヲ 問 2 三及バズ時 = 觸 w ル能 = 企 ズシテ -30 ラ 終レ 1% w リ而シテ蘭人之二代リ約半世 = IJ ,00 寧. 偶然 二 藻陸 ノ北及

和闘ヲ 印度 3/ 地ラ _ 130 向)V ~ 7 w 21 IV 10 ンド トグ島ト名ケ鐵片ヲ樹上二打付 ラト 號ノ船長 沙 W " 10 15 jν 記 1. 170 3/ ナル テ B

E

1

1616

十月シャ

達セル

Æ

1

7

X. 1 元千六百十六年十月二 ンタムニ向 商 ノ首席 12 IJ 十日アム 7 L ス テ ス N テル 77 Z 1 13. ムノ「エンドラト」 12 in 7 ١٤ ルト グ 船 號此ノ地 長タリ船 三着 い同月二十七日此ノ地ラ スルイクノギリス、ミ 發

片下樹上ニ刀痕アリ書 ノ鐡片其 繭船 シテ 日 ファ 7 1 ルキンク」 號ノ船長蘭人フレーミングニ依り發見セラレ タリ時 鐵

次席貿易商ジャン、スタイン一等士官ビル市ノピエタル、 ツークス紀元千六百十六年

彩多アルタ見タリ内ニダークハルトが鳥ノモノモアリキ物館二四藻沿岸二古ケ沈後セル騎船ヨリ引キ揚ザタル遺物 18 髣髴トシテ蘭裝ノ故人ヲ降裏ニ映出セザル能 後1801マデ此ノ鐵片復白人ニ讀 マレザリキ吾人ハダルク、ハルトグニ就テ其後聞夕所ナシ 然レド ハザルナリ Æ --度鐵片 ハウトマンノ險礁ルーイン(點語) 樹上二釘 着 t ラ n ノ岬皆 ヲ思へ

蘭人ノ名ヲ存 二上 シテ今日 セシ メタ ---傳フ ルヲ以テ實ニ白人ガ藻陸ニ住居 面 シテ 1629 ハウトマン礁ニ 難 3/ 破 13 72 セン蘭船 始 F 18 17 ピャー 號 時水夫及

濠洲 ス 灣 ク濠 7 客ヲ ---海 = ンニ 入 大 附 1 陸 世 1 25 ノ南海岸 基ク 勿 才 近 13 紀 フ、 12 論 存 初二 海 古 = 在ラ ---1. 陸 峽 > 牛 カ 當リ 吹 24 1 紹介 ト秤 海 名ケ 誰 圖 付 1 -6 ケラレ其地 和 也 = 3/ ラ 蘭 知 1/2 1% 25 132 皆然 y w w 3V w 1-關 中 所 所 70 w ナ 領 F 1-7 = 名 ヲ名ク 東印度 [11] 名 IJ ス 1627 然ル 32 ___ 15 28 繭領 起 ラ ス = 蘭船 -07 ルニ常時船客タリシ首席旦 間 原 V 東印 此 ニャノ名 15 7 ナット 航 1 IJ ワグ 度總督 島 而 ス ルデン、 ス今少シクタス w 3/ .33 ワ テ 船ガ屢々濠洲 ハ十七世紀ノ 此 ンデ ノ名 1 ゼイバ 7 1 __ 基 ヌン 1 干 デ 和 4 ス リドーハ 4 ンノタ ラ 蘭ノ大航海者アベル、 西 3 那ヲ以テシ 北岸 1 1 蘭 100 7 本 ス jv F 船 1000 Telescon 名 マニヤ 呼 吹 國 キアネ 18 又 3 丰 1 我ガ大隅 1 3 流 東 發見由 + サレ 7 ン 航 5 r ブ ノ途 1 號 來ヲ テ ---海 15 1 峽 F 船長 偶然 偶然遠 認 呼 洋 7 E 其

此事 1 L 端 力 關領 2 及七 東印度 當時 ハン」ノ二船ヲ以テシ ノ總督アントニー、 1642 ワンデ 八月十四 1 × > 四 日ヲ以 ノ心ヲ 動 テ 10 力 1% 3/ 1% 15 -to ス ヲ發 ~ ~ シ南洋 授ク 探 w 檢 途

頗

N

好

ナ

w

T

7

世

間

吹

聽

セ

-

1:

ラ

3/

3

13

ヲ 二十一月二十四日ト云フニ東北遙カニ陸地ラ發見シ高山ヲ ~3 久 發見シ之二入リテ深サ二十二專成質泥ヲ得テ投錨 キ港ラ發見スル スマンハ素ョ リ常時 二務ムル内一大荒天二襲ハレ今迄見タル陸ヲ失フト共二三晝夜苦鬪ノ後新 流 ノ航海家ナリ初メ先び モーリシャスヲ指シ茲二四風ヲ得テ東南間ニ向 シタル ヲストーム 背ニスル海岸ヲ望ミタルヲ以テ入 1 リテ泊

动 バートノ在ル灣、世界有數ノ良港ナリ此灣ストームベイト云フ緣因實ニ ノ名二依リテアントニ、ワンデイメンスランドト名ヅケ和蘭ノ國族ヲ樹テテ十二月八日ヲ以テ東 テ去 右 如 3/ 及

發見 ス セラルル迄二及ビタリ F = 1 ~ ヤハ此後久シク濠大陸ト接續シ居ルモノト考へラレキ實ニキャプテンクック時代ラ 殖民 2 而 シテバス及フリンダースト稱スル二人ノ大探檢家出デテバスニ依リバス海峽 丰

7 1 恰モド ス ヘタルニ等シタスマンハ此ノ後行クし、太平洋ノ諸島ヲ發見シッツ翌四 セリト云フ蘭人ハタスマンノ偉業ヲ久シク發表セザリシト雖モ後年アムステルダムノ「タウン フリースガ我干島列島ノ得撫及擇捉島 此 1 後 ニウー ジーランドラ發見シ之ヲ例ニ依リテスターテン島及コンバニヤ島 ノ間ヲ航シテ前者 = スターテン後者ニコンパ 十三年六月無事

7 E 六 1 デ 船 w 1 毛 1 終 3 床 IV ~ = 所 25 此 7 知 後 E ザ ラ 1664 ザ 1 7 w = = = 17 7 テ 無慘 ス 少 -7" ス ナ 1 -7 V ----ンノ航 11 船 三隻人百 ノ海客多ク ~ 路ヲ IV -}-顯 IV 一人ヲ 非 E 命 25 ---檠 倒 與 V ~ 若 再 開 y L. F 1 南 未 云 路 7 海 ~3 振 7 探 18 檢 ズ 同 セ 37 3/ 17 × 是 3/ W ガ 17 ス 死 7 IIII

10

シ

1%

y

]-

15

W

13

今

猶

存

又

W

t

否

ラ

1

ナ

搜索ノ 發見 テ .7 此 南 1 後フ 極 爲メニ II. -倒 v F 西藻ノ名物黑白鳥ヲ 島 1 V 船ヲ 777 1% ル港外ノー w 1 率 グ ス 平濠 1 = 探檢 9 3 洲 b ツ北 大 7 1 西岸ニ 以 住 テ闘 携 1 25 如 1 ~ 歸 人ハ 派 7 1 ウ 遭 世 V 濠洲探 = 3 J. 七 唱 9 ス 1. V 明 13. 檢 _ 1V 1 手ヲ 至 æ ノニ IV 收 7 3/ デ × 1% 1 テ 捜索ノ 海岸 リフレ ヲ 測 目 1 = 1 量 的 ン 物 3/ 戏 グ 7 得 1 × 1696 " -15" 25 IJ iv 3/ _ 1-1-行 750 雖 衙 -E 南 不 明 U 船

3

7

英 荒漠 7 JL 11 7 遠洋 滚 1 船長夕 洲 ---3 航 北岸 IV 3/ IJ 海家ナ 陸 外策 亍 リシ 初 地 _ テ濠洲 ラ生 至 ナ y y 丰 腿 3/ 活 1688 _ ノ苦 グ 17 Name of Street 至 ネ 西印度及ブラ 至 3 IJ __ 難 17. 7 月 1 汉 W self. 堪 w 四 E 之ヲ 號 H ١٤ I. ノ船員 丰 今ノキ ズ 5 13 西 ヤ 人所 1V ブ L テン 邊 F E. > グ -1-領 ナ -航 ハ製造 y ス 1 3/ サウ 7 共 地 = 1% ツ -於 argu w 77 1 1-經 共 1. テ - marin = ラ 歷 非 = 附 セ = 近 1 = 7 大 至 y 3 -= 1 テ E y 13 24 1688 奪掠 ウ 島 3/ 7 ガ 平 = T 會 ラ受ク ブ 遁 IJ 1 ラ 4 -42 河 V 漏 30 Zi, 面 _ 近ク)V 水 1V 3/ 海岸碇 ノ思ア 夥 38 テ 船ヲ 本 3/ 24 E 國 7 乘 泊 IV 到 7 --7 歸 上 底 中 以 陸 舊友スワン か y w 岸 1% 17 = テ リシ 逐 及 Ž, 三遠 乘 E° E 探 ガ

檢ノ事蹟ヲ發表シグリシガ大二世人ノ歡迎ヲ受ケ英王船及人ヲ給シテ再度ノ探檢ヲナスベキ旨ヲ 久

野 キ 1699 八月一日陸地ラ得之ラシャークスベート命名シ水ラ取リニ海岸ニ沿と航 120 w ノ外何等得 ムピエルノ斯クシテ「ロ ノ途中アツ 船員 同ト共ニロビンソンクルーソーノ實劇ヲ演ジタリ ル所ナカリショ以テチモルニ赴キテ船ヲ修繕シニウーギニャノ北ガヲ廻リタ セ 2 3 ョン沖二於テ船 -パツ 2 號ヲ得五十人ヲ率ヰダウンヲ出帆セルハ 1699 一月十四日ナリ ノ浸水夥シク遂ニ之ヲ乘捨テザ ルベカラザル場合二至リダムピ 行 3 12 iv IJ ŧ 水 シガ弦 ナキ荒

1. 12 此 ノ後 傳 w カークナルモ 汉 Z. E 工 w ノジュアンフェルナンデス島二取 24 本國 二還リシガ後年商船ノ船長タリシコ 遺サ 2 12 }w アリテ其ノ船員ノ一人アレキサンダー = 7 12 to" ンソンクル ーソーノ本體ナリ

5

洲 17. ヲ関却スルコト之ヲ久シウシテクツクノ大發見二及ベリ 2. E° J. ル 1703 二航海記事ヲ發表シ而 3 テニウ 1 ** 1 ランド ノ無價値ヲ廣告セリ為メニ世人ハ濠

然レドモ初テ東藻ノ好土二上陸シ藻洲二人ノ居住スルヲ發見シタルモノハクックナリ從前ノ發見ハク 1770 回 月キ -1-プテン、クック濠洲ヲ發見セリ否濠洲ノ發見ハクック以前ニアル コト前 説ク 斯 如

ックヲ兹ニ導キ致セルノ功ハアランモ世界文明ノ利益上ョリ見レバ其ノ價 所ヲ建テ 1769 六月三日好天氣ノ下ニ金星經過ヲ觀測シテ主要任務ヲ遂ゲ 過 1 譲ラ 觀 更二身ヲ海軍ノ水兵ニ下シ累進シテセント ムス 測 河ヲ發 ズ ノ爲 豫洲 丽 メ南海 シテ遠クワ ノ思人タル シ第一回ノ航海ニ上リケープホーンヲ廻リ南海ニ出デオタヒイテ島 二派遣セラレ初テ三百二十噸ノ「エンデイボル」ノ艦長トナリ 1768 七月三十日ラ ウージュランドニ逢着シ途ニ濠洲大陸ヲ發見セ スコダ ノミ ナラ ガマ及マゼランノ比ニアラズクックハ一船夫ョリ起リデ商 ズ其ノ三囘 ノ航海ヲ以テシテ人類 12 1 L 1 ス 70] 1 測量二 異才ヲ發揮シ ノ上ニ及ボ 值 猶訓令ノ命ズル 極 メテ セル功業 1769 小 ナキ 金星ノ太陽經 船ノ 所 船長ト ロンプス 觀測

路 像立 7 1 成 西方 建テラレ リタルーアドミラリチー、 -12 所 植物學ニ精シク及壞血病ノ原因ヲ研究シンガ豫防 アル 指 7 シテニ 大將 汉 70 説ク チー」ノ金牌ヲ受ケ 12 モノナキヲ遺憾トシ 1908 E レ ノ漸ク スフオード其ノ除幕式二演説シタルヲ見ル面シテロンドン 世間 アーチーノ側二更二立派ナル銅像立 ノ弊 タルナド素ヨリ尋常海客ノ匹傷ニアラザリキ然ルニ彼ノ像 トナリ昨(六年)年十一月彼ノ故郷 ノ頃ヨリ往々ニシテ此ノ大偉人二對 ノ方法ヲ案出シテ之ヲ實行 ツベ ヨーク 3/ 1-云ン 州 ノマ スル 1 モー w 謝思ノ シ功ニ ŀ 12 ノ東端ニ新 道 依 初 ア英國 テー銅 於 テ缺 1

7

7

7

ハ伴ヒ來レ

ル植物學者バンクス地質學者フランダー天文學者グリンノ諸氏ト

共二具二諸般

調

八本島カラカリーア灣 二年二月十四日所ハ布哇)二 -7 [门] 1779 十月勘察加 " ッ十一月一日九十 クハ 3 日 本ョ世 界 ョリ千島列島ヲ傳フテ南下シ十月二十六日陸中宮古 非 = 九里ノ南端大東岬沖マデ下リ再ビ北上シ銚子沖ョリ遠ク東ニ去リ 紹介シタル間 命 一人最後 ラ遊 接ノ恩人ナリ彼ハ第三囘ノ航海二於テサ ゲ タル後彼 ノ業 ハキャプテン、 キングニ依り機承セラレ 沖ニ至リ海岸 ンド キッチ群島 而 經緯度ラ シテマ 航 海ヲ續 測 定

--東岸ノ一角ヲ見之ニ名ヅクルニヒックス大尉ノ名ヲ以テスクックハ夫ョリ 休題ク 7 此 藏 能發 1 日 トン 3 測 ツクン 75. 開 日本探檢 來朝 11/1)v = 日 E 1 Silli Cost 3/ 本 瀬ヲ得る ノ人口四百 ダル ノ東岸 泊 モキングノ測量ノ上二計畫ノ基礎ヲ立テ ス 四 如き皆航 w 入リテ 月先ヅニウ 事 1 正確ナル位置 五十萬貿易額十三億五千萬圓 週間 泊 海者ガクック第三回ノ航海中日本ヲ紹介セル部 セリ是レ質二英國ラシテ藻洲二罪囚ヲ送リ之二殖民セント 以テ其 1 1ランドニ至り失レ ヲ世界ニ報告シダルヲ以テ 1776 ノ位置ヲ 精測 シ始テ日本ノ厚サラ ノ富ヲ生ゼル導火線ナリ(大正二年 E 1804 リ西 3 ク テ陸 12 1 地 七 知り得タルラ喜ビ又 1797 プ ノラペ 北上シ ヲ蒋ネ四 ンス 三感謝 12 13 テ港灣 12 1 月十七日 2 -12 ス ザ ノ露使 ノ日 7 12 需 23 本海 現 N 始 ナ 素 四 テ 3 月二 濠洲 閑 地

査ヲ遂ゲ五月六 日ヲ以テボ タニー 灣 7 去レルニ 拘 ラズ スグ其 ノ手近ニ悉土尼 ノボ 1 デ

7 知 ラザ IJ 3/ 1 所謂縁ナケ V 112 紙壁隔 テテ相 見ザ w 毛 1 カ

是 底 築 セラレ之ヲ用 7 2 3 リク 殆ンド 修理 7 シ多數ノ病者ヲ出シタルモ途ニ クハ海岸二沿と北上シグレー I ヒテ沈没ヲ問 デ 1 术 N 號 一髮三兔 7 沈 X 2 V 無事 ヨーク角ヲ廻 ŀ ŀ 3/ ~3 1 汉 1871 六月十一日ヲ以テ英國 w y P E iv = y リテ海峡 リジ 1 フノ間ヲ航シ具ニ 3 ニ艦名ヲ永世ニ傳 1 マット ノ用途 二歸着 艱難ヲ シ第 ヘバタビ 若年 常メー 士官 囘 ヤニ至り ノ航 時 시스 3 海 7 IJ 礁 終 船

發見談探檢 此 17 V 1) ノ後英國 ケバ ヒリツブラガバーナー二任ジ之二十一隻ノ艦船ヲ附與 計 八北米合衆國 談 7 ハ我々船乗リニ無限 IV 7 知ラ ズ ノ獨立二依り罪人ノ送り先キヲ失ヒ濠洲ヲ罪囚ヲ以テ殖民 1-雖 モ濠州 ノ興 ガ 本當二發見 味ヲ與フルヲ以テ濠洲殖民後ノ分マデニ至 セ ラ V タル シ囚 此邊二 人ヲ護送 テ先ヅ筆ヲ 10 擱 リテ 17 = ス ハ蔵 F N コト <u>لم</u> = 限 决 IJ ナ

ヒリップハ喜望峰ヲ經テ航海二百五十二日ニシテ無事ボタニー灣二着ス

示: .7 プ ハ安坐無策 灣 頭 --滞 ノ土 ノ岩角砂濱乃至低濕ノ地草木茂ラズ良水乏シク且 ニ非ザリキ 彼 ハ自ラ起チ テ好 地 發見二向 E 艇ヲ仕立テテ北上シ忽チク ッ灣内狭 キー 過考 タリ 此

太上北州ト別ナルコトラ天下二體シ八月二十九日チリポ

イト新知

トノ

間ヲ拔ケテ太平洋ニ出デタリ

浪

說

紛

ヤタリシ棒

記錄二 E 禽鳥唱 小舟 プ灣內ヲ巡視 E 清水アリ河流アリ港內干船萬舶ヲ容 ノ泊地ト示サレタル灣内二入り仔細 スルコ ト二日時 ラ殖民 卿 ノ名ニ iv ルニ足レリ今ノポート、ジャックソン是レナ 二探檢セルニ兹ハ灣內奥深ク岸上樹木密生 依リ 地ヲシド = 1 = ーウト名ケ即チ之三移 3 野花笑

峽ヲ 三日樺太 來レ ラ 海二二艦アリ之ヲ注視スレバ佛國 = E シテ 經テ日 17 w 沿海州二達シ韃靼海峽ヲ登リカストリー灣二人リ問宮海峽ノ通過ヲ試ミ不可 ナッ 佛艦 ĵ ス ハ急ギ 沿 本海二入リ鬱陵島ヲ發見シ折レテ能登 20 い引達セテ入リテ泊シ此ノ年三月ボタニー灣ヲ去リテ幾星霜杏トシテ行 E 我宗谷海峽二其ノ名ヲ留メタル名高 1-リップハーサップライ 佛國ヲ 南下シ八 术 13 出發シテ以來諸所ヲ探檢シテ今本國二向ヒ歸途ニアルモノ曾やボタニ = 灣一 月十一日宗谷海峽ヲ東ニ出 歸り上陸隊ヲ引上ゲ十 ノラペ 號ニテ佛艦二赴キ之ヲ歡迎シテ後麾下ノ十一隻ト共ニシ U 1 ス少 1 キ航海者ニシテ前陳二艦ヲ率ヰテ 1787 將 沖合ニ デテオコック海二人リ兹二當時語 ノ率キ 一隻ノ艦船将 一來ラ測 ルーボ 量 エツー ニボタニー灣ヲ出デントス 1 ショ ルーーアス 1 前 一述 トロラー 能 ~3 11 ナル 12 所ヲ 五月對 所 7 知ラ 1灣ニスリ 究メ八月 ノ如 -11-ク北 高海

速ノ難

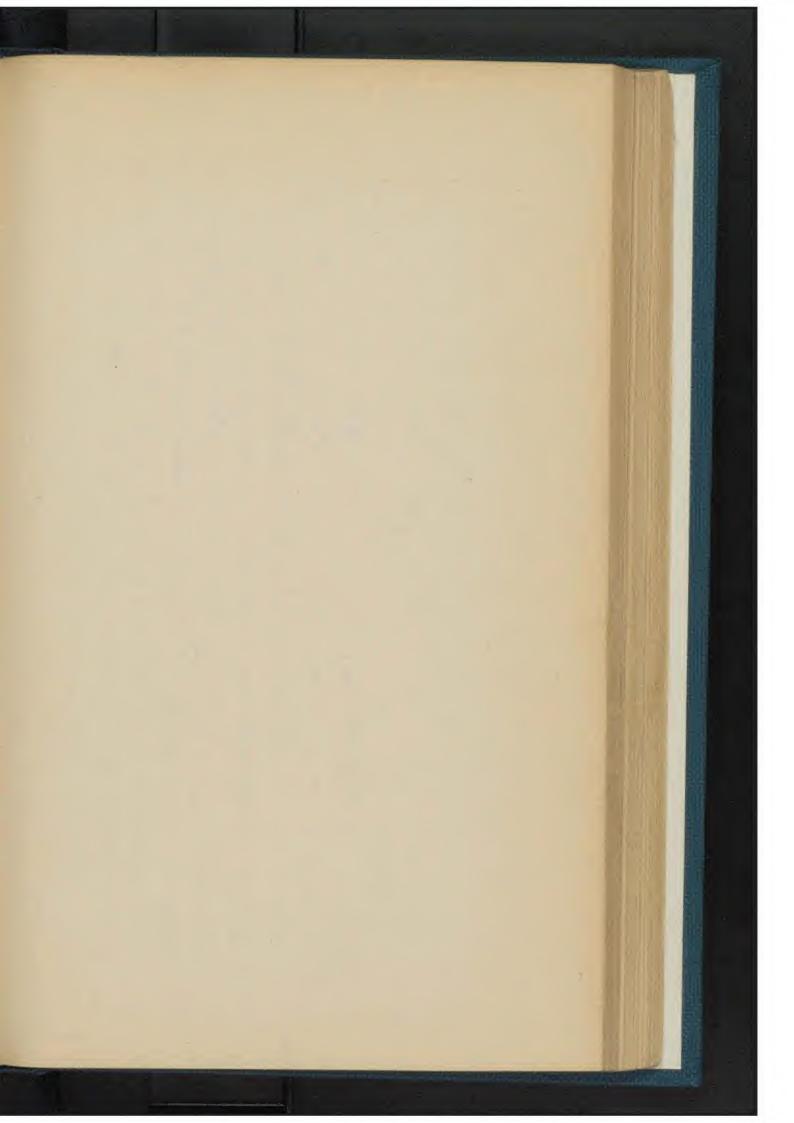
破

ラ 月二十日二此ノ海峽二臨三二十九日二至リ僅二通過シタルヲ見レバ當時航海 17 1 ス ハ此ノ後へ 14 U 3 ウ ロップ スキーニ至リレ セ ツ プ氏ヲ サ 1 ~ リヤ經由陸行セ ノ苦心ヲ 想像ス 3/ × 報告書ヲ巴 iv ニ足ル

セル海峡ヲ洋名ブーソール海峡ト云フハ彼ノ率井ル艦名二取レルモノニシテラペロースハ八

理二送り更二南下ボタニー灣二於テヒリップニ會セルモノナリ

巴理 祉: 跡ヲ發見シ初テラペロースノ最後ガ知ラレ ラ 1 船長 u I ノ博物館ニ悲惨ナル記念品ヲ留 E. スノ航海記事へ 1798 Ī ター、 ジ ロンナルモノサン 英譯出版セラレ 73 又 1883 佛政府人ヲ派シテ遺跡ヲ探ラシメ大砲錨等ヲ拾ヒ 7 タリ ロズ群島ノ最南端ニアル Thi シテ此ノ大航海ノ ワニ 終リヲ語ラズ 1826 = 1.7 島二 於テ難破船 東印度會 ノ遺



洋人日本探檢書籍目錄附錄第八

帝	522	書 名 出版年
1.	2.	Kaempfer's History of Japan.
		in 2 Vols. · · · 1728.
S,		Kaempfer's History of Japan, Amsterdam.
		in 1 Vol. · · · 1733.
4.	5.	De Charlevoix Japon.
		in 2 Vols. · · · 1736.
7.		Montanus Embassy to Japan.
		1670.
8.	9.	Thunberg's Travaels in Europe Africa and Asia in 1770-76.
		in 2 Vols. · · · 1795.
21.	. 22.	23. 24. 25.
		Burney's Voyage to South Sea.
		in 5 Vols. · · · 1803–1817.
26		Burney's Chronologic History of NE Voyage.
		1819.
27.		Memorials of the Empire of Japan in the 16 &
		17 centuries. By Thomas Rundall.
		1850.
28.		The Voyage of Captain John Saris to Japan, 1613.
		By Sir Earnest M. Satow KCMG.
		1900.
29.	. 30.	Diary of Richard Cocks Cape merchant in the
		English Factory in Japan, 1615-1622.
		By Edward Maunde Thompson.
		in 2 Vols. · · · · 1883.

晋	湿热	*	名			出版年
31.	32.	33. 34.				
		A Voyage to the Pacif	ic Ocean under	taker	by the	
		Command of H. M.				&
		Gore in H. M. ship				
		the years 1776-1780				
		in 3 Volumes, accom		bum.		
			-			1784.
		Vol. I & II by Capta	ain James Coo	k FI	RS.	
		Vol. III by Captain				
		Published by order				
		missioners of the				
			* * * *			1784.
35.	36.	The Voyage of La Per	ouse.			
		, ,	in 2 Vols.		***	1798.
37.		Broughton's Voyage.				
			in 1 Vol.		** **	1804.
38.		Krusenstern's Voyage	•			
			2 Vols. in I.			1813.
39.		Langsdorff's Voyages	& Travels.			
			2 Vols. in I.			1813.

露人ノ探檢

番	验	营	名				出版年
51.		Strahlenberg's Siberia.					
				* *		* *	1738.
52.		Russian Discovery & History of	f K	mtsc	hatka	١.	
		• •					1761.
53.		Sauer's Billing Expedition.					
					* *	4.1	1802.
54.		Coxe's Russian Discoveries.					
		4th Edition · ·		4.0			1803.
.55.		Staehlin's New Northern Arch	ipela	go.			
		1.					1774.
56.		De Lesseps' Travel in Kamtsch	atka				
							1790.
57.	58.	Golownin's Narrative.					
		2 Vols.				**	1818.
59.	60.	Golownin's Japan & Japanese.					
		2 Vols.					1853.
61.		Gawrila Sarytchews' Voyage to	NE	Sibe	ria.		
		1 Vol.	**		* * *	**	1809.
62.	63.	Goncharoff's Fregate Pallada.					

十九世紀英人ノ探檢

番	non Zon.	杏			名				出版年
71.		Hall's Voyage to Corea	1 7	Vol.				• ×	1818.
72.		M'Leods' Voyage of H	.M.	S. " A	Alcesto	e".			1818.
73.	74.	H. M. S. "Samarang	2 1	Vols.					1848.
75.	76.	Oliphant's Lord Elgins Japan.							
77.		Tronson's Voyage of "					* *	* *	1859.
		Blakeney's Cathay & (1	Vol.			* *	4.	1859.
78.			1	Vol.		* *			1902.
79.		Osborn's Queda.		ew E					1865.
80.	81.	Cruise of H. M. S. "	Bac 2	Vols.		879	1882.		1886.

米人ノ探檢

乖	號	普		名				出版年
101.	102.	Voyage of Morrison	& Him	aleh.				
			2 Vols.		* *	* *		1839.
102.	104.	105.						
		United States' Japa modore Perry.	n Expedi	tion i	unde	r Cor	n-	
			3 Vols.			+ '4	٠,	1856.
106.		Sailing Directioners China.	for the (Coast	of Ja	pan	&	
			1 Vol.		* *			1857.
107.	1	Senate Documents.						
			Vol. 4				18	351-2.
108.		Ditto.						
			Vol. 6			**	185	4-55.

	雜	種		
番號	書	名		出版年
121.	Description of Form Jaar.	osa by Geoge		1704
122, 123.	Voyage of the "Veg	a" by Norder		
124.	Memoir of Krusenst		me Bernhardi.	
125.	Voyage & Servises of		sis" by Oxon.	
126.	Voyage into Polar R	egions by Bar	rrow.	1818.
127.	300 Years ago (Jap desdale.	an Society) b	y Lord Re-	1908

近年ノ追加 (順序不同)

書名		
- 6.7		出版年
Murdock's History of Japan.	Vol. I	1910.
Murdock's History of Japan.	Vol. II	1903.
Murdock's History of Japan.	Vol. III	1920.
Pineiro's History of Japan. (西班牙文)		1617.
Captain Beechey's Voyage to the Pacific & Beerin	ıg	
Strait in two Vols. New edition.		1831.
Di Marco Polo Viaggi in 2 Vols. folio Venezia.		1818.
Pinto's Travel in folio 3rd edition London.		1692.
Titsingh's Nipon o dai itsiran London.		1834.
Histoire de la Religion Chrétienne au Japon Par		
Leon Pagés. Paris		1869.
Notes sur le Japon, &c Par Chassiron, Paris.		
		1861.
Charlevoix in 2 Vols. Paris.		1736.
Crasset in 2 Vols. Second edition, Paris.		1715.

鐵 炮 記 南浦文集 (原文漢文)

代種子島久時公

大明 云フ 阳州 其 貌 頗 形 此 國 N ノ情ラ ノ其 ノ異 文字 ルノ故ニ 儒 3 此 南 ナ 生 IJ 1 一人ア 狭ル 島小ナリ 愜 中 7 = w 名ク 解 + 人 = E. 五峯即 在 ヲ w 偶 リ名ヲ五峯ト云フモ其ノ姓 知ラス船客百餘 ト云フ是ヨリ先キ天文癸卯 7 ルヲ 7 小雖 3) 知 V 五峯 州ヲ 知ラス チ書 リテ文字 1 去 E 3/ ---テ日 週ピ 其ノ居民庶ニシテ且 是 iv = 杖ヲ以 其 故 ト十八里名ケテ 17 人其ノ形 此レ 三其 ノ理 テ沙 7 1 1 是レ 通 飲 18 不 秋八 ス L E Į, 字卜 西 類 + iv 南蠻種 月二十 種 ツ富 書 ニシ 7 杯飲 ハ詳カ F 知 テ テ其 上 1. 5 日 3/ 五. 云フ我祖 ノ買胡 ス謂 テ ナラ 杯 船 日丁 ~ 1 話 工 七 中 酉二 播 ナ ス ス 16 w 買胡 客何 時 不通ナリ見 世 其 種 y 當 粗 ار ب ノ食フ = 々焉ニ居 西 示 V w 粒ナル 我 處 村 君 ノ國 7 ノ主宰ニ -臣 カ 手 n 西 w 到 ノ義 1 者以 E 古來相傳フ島名ヲ V 食 人 村 其 1 3 織部 テ奇怪 デ箸 軱 知 w 1 浦 質 7 in チ 丞ナ 知 止 }-七 無窮 雖 IV ス ラ 7. 大 爲 此 ス 12 徒 1. 船 ナ Æ 何 =E ス 種 其 階 未 其 T w ソ 子 力 1% ノ中 y 欲 其 r 種 禮 IJ 何 如

ス

12

比

E

ナ

. リ

物一

タヒ發シテ

銀山

E

推

7

~

ク鐵壁モ穿

ツヘシ姦究ノ人ノ國ニ

仇ヲ爲スモノ之ニ

1 修 w IJ 云フ 通 聞 以 = 戶 ナ 7 如 3 ヤ -テ ____ 3 IJ カ ---去 其ノ目ヲ 妙 手 筆ヲ 17 雖 ント 船 12 其 其 薬ラ 1 同 サ 7 コー十三 E 揮 邓 欲 赤 IV 戶富家昌 有ル所ヲ以テ其 鳴 物ヲ 其 其 相 ナリ之ヲ我祖父惠時 7 3/ 尾 眇 12 應 = テ 木 中 底要ハ密塞シ其ノ傍ニ一穴アリ火ヲ通スルノ路ナリ形象物 ŀ -1> = 携フ長サ二三尺其 寓シ ノ津 3/ 里一津アリ津ノ名ヲ赤尾木ト云フ我カ 驚 2 敏捷ナリ = 同 ニシテ南商北買往 スレ 而シテ其 雷 氣 二人 テ ノ悪ク 相 津 添 求 n 口 ノ無キ所ニ易フル 偶 7 斯 L ---カ如 1 w w -11: ノ時二當リ津二忠首座ト云フ者アリ日州ノ龍源 = E 五拳二遇ヒ文字ヲ以テ言語ヲ通ス五拳亦 マリ ト老父時堯トニ告ク時薨即チ 穴ョリ火ヲ放テ 3/ 小 ノ體タ ノナリ賈買ノ長二人アリーヲ牟良叔含ト云ヒーヲ喜利志多忙孟太ト 聞ク者其 團 終二 還織 部ヲ以 ルヤ 禪ヲ ル ノミ 力 ヘノ耳ョ テシ 中 改 如 通 メテ法 3/ 怪 ... 先ッ一小白 = 此二 4 掩 則 3/ チ立 テ外 لاهد 華 由 船ヲ + サ 1 賴 者 ルハ莫シー小白ヲ置 ロニ中ラ 徒 **黔**力 1 人 we Western ラ岸 直 扁艇数十ヲシテ之ヲ挐 ル所 1-非 = 爲リ號 > n 畔 重 ナリ是ニ ョリハ要津 ノ宗子世々居 サ 二置牛 + 7 w 3 ナシ 以 テ住 知己ノ異邦ニ 親ラー ノ比 テ質 於 其 乘院 水深ク且ツ波ナ ノ徒ナリ法華 テ織 7 倫 ĵ, w ... 發ス 物ヲ手ニ ス 爲 所 部 1 射者 ヘキ ス 云フ 73 丞又書 1 n 其 在 シメ二十 地 ラ候中 7 無シ 殆 1 iv ナ 聖記 3 巾 思 其 其 乘 テ云ク 1. キノ愈 津 常通 ノ光 經書 7 七日ヲ 口 棲鵠 身 用 妙

調

差ナ 時 之ヲ 島 何 卿 眇 以 1 1 5 V V 堯日 人 者 勝 遠 1 IV テ家珍 目 終 日 コノ名ク 學 用 V テ ---小 丰 IV 人 フ 數 ۱۱ 敎 7 1/2 白 能 翁然 12 1. 蕰 フ 則 IV 7 7 7 1 致 24 بأحر 1 與 IV 7 手 量 w 疃 ~ 爲 ス 百 夫 サ 1. 種答 所 詳 V. 聞 步 公 所 種 力 V 1 ス 7-ラ u 其 以 -17 斯 1 #E テ 1 }-外 謂 サ -7 亦 w 七 _ テ 亦 2 ス 1 得 其 妙 ス w 日 カ 1 7 3/ 重)V 日 = ---ノ魄 藥 ナ 故 テ 旣 7 所 譯 17 置 28 ~ 3 夫 丰 H キ 眇 1 我 3) 100 カ 願 持 之二 v ノンラ 時 3/ 時 ヲ 是 目 Œ 71 テ 17 答 堯之ヲ 變種 薨 テ人 喪 1 物 心 篩 25 1 火 歲 主 重 25 テ 和 學 ,33 ン况ン 名ケ 學フ **豊復** 龗 約 重 看 目 7 日 合 見 放 7 7 3/ 7 1 1 九 ナ テ二人 所 心ヲ 君若 テ鐵炮 テ思 法 IJ 守 型 1 7-テ 以 + 佳 君 لأطر w 12 23 時 糜應 薨其 則 節 夫 7 7 ナ E 3/ E 小 之ヲ ノが 要ス 5 ラ 臣篠川 F y チ V フ 15 爲 辛亥二 之ヲ 7 其 1 大 ス 1 苗 約ヲ 凡 學 種 稀 價 ヤ片目 w 池 V 祭 世 稼 殆 天 1 با فر IV 1/2 1 當 調 守 1 下 目 1 4 --四 高 七 1 知ラ テ 珍 洞 7 3 1. 郎 7 1w = iv 1 塞 日 庶 此 時 理 眇 欲 ナ ス 7 E 31 堯喜 w 1 17 ス ij 幾 1 卡 -3/ テ 1 我 明 良 及 1 テ 16 テ 引 ス 55 毛 七 之ヲ 博 我 人 始 1 w V E 33 辰 テ 20 % unit. Second 遠ヲ 見ヲ 之ヲ = 難 斯 1 × 7 日 1-毛 時 名 以 於 其 學 -亦 人 17 丰 老子 以テ 見 能 從 在 7 テ 7 テ 其 1 始 18 試 7 言 w 何 3/ w w 1 17 1 14 蘊奥ヲ 舊 未 = ノミ 所 4 サ ス 1 2. 10 3 名 胩 ス _ 謂 歪 不 V h ナ 其 丰 蠻種 莞朝 妙 便 時 日 w 1% 巾 1-2 10 世 爲 堯日 動 罄 藥 ナ カ w 7 フ = 7 IJ = = 靜 抑 1 U 1 IV 3/ = 麾 非 用 ж 其 然 テ 知 1/2 小 1. 7 E 鐵 9 E 以 细 E 3/ 團 7 w 王 12 4 炮 テ 鉛 約 心 デ E 5 ス ラ 見 -之ヲ 亦 w 自 告 願 7 ヲ iv 何 = h 守 我 W 求 7 7 故 9 先 其 明 無 畏 人 7

又三郎ナルモノアリ商客ノ徒ナリ我島ニ寓止スルコト一二年ニシテ鐵炮ヲ學ヒ殆

2

J-

熟

ス歸旋

卷テ之ヲ藏 堯以爲ラ 胡復我島熊野浦二 法 己レノ韞匱ヲ私シシテ之ヲ藏センヤ即チ津田監物ヲ遣シ特ニ其ノ一ヲ杉坊ニ 某公ナ 二之ヲ製セント欲ス其ノ形制頗 勤 ノ心ニ之ヲ解シテ日ク昔者徐君季札ノ劒ヲ好ム徐君口敢テ言ハサルモ季札心ニヒニ之ヲ カ家臣 ノトヲ ト放 テ已マス響ニ殆ント庶キモノ是二於テ百發百中シテ一失無キニ至ル此ノ時二於テ紀州根來寺ノ杉坊 吾島編小 セ 製造ス 2 IJ 遐邇三 天 ス 道 面 ノア ルヲ知ル於是藏餘ニシテ數十ノ鐵炮ヲ新製ス然ル後其ノ臺ノ トヲ w 時堯ノ意い其ノ臺ト其ノ節 授 ヲ況 ナリト雖トモ何以敢テー リ千里ヲ遠ホ 在ル クル 來ル 知ラシ ンヤボ 所 浦ノ名熊野ナルハ亦小廬山小天竺ノ比ヒナリ買胡ノ中二幸二一人ノ -6 ナリ ム時堯把玩ノ餘リ鐵匠數人ヲシテ其ノ形象ヲ熟視セシメ月二鍛へ季二鍊リ新 視 メテ得 即チ金兵衛尉清定ヲシテ其ノ底 テ之二效フ百 シト ル之三似タリト雖ト スンハ豊心ニ セス 3/ 物ヲ愛マンヤ且ツ復我ハ求メスシテ自ラ得テ喜テ寝ネス十襲 テ我鐵炮ラ 發百 トニアラスシテ之ヲ行軍ノ時ニ用フへキカニ在 中 快 スル者亦其 カランヤ我 モ其 求 文 ノ底ノ之ヲ塞ク所以 2 ト欲ス時堯人ノ之ヲ求ムルノ深キヲ ノ幾多ナルヲ知ラス其 ノ塞ク所ヲ學ハシム ノ好 ム所亦人ノ 形 制 ヲ 好ム所ナリ我豊敢テ獨 贈リ且ッ之ラシテ 1 知ラス其 漸ク 其 ノ後和 飾 時 月ヲ經 知り終ニ寶劒 泉界 翌年 鲵 綸 テ其 アリ 妙 感シ 如 藥 於

其

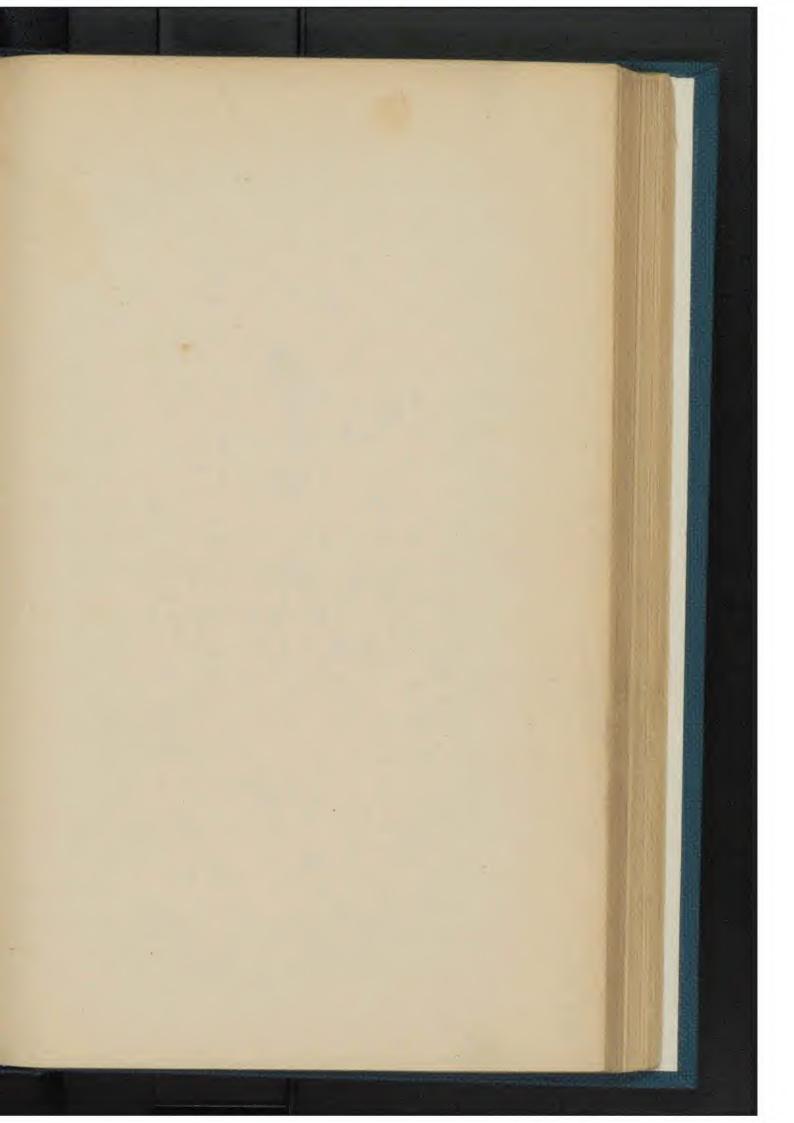
皆名ヲ 傚慕シ 纜ヲ 郎三 去 丰 F 風 7 炮 ス 知 船遂 海 東 我 是 アリ二貢船 ノ敷百 辨 7 リテ我島 時 亦然リ 呼 薨之ヲ 行ハル 扱シ怒濤雪ラ メ五畿七道ニ テ多ク之ヲ ナ 於テ畿内以西 飄邁 in 南遊 ハスシテ鐵炮又ト云フ然ル後幾內 毛 人船ヲ我小 然レ ノア 求 ルャ蓋六十 1 二名夕 シテ東海道 志ヲ -27 メ之ヲ學 學フ y 漸クニシテ大明 ŀ 手 遂 捲 ルモ 徧 毛 7 丰 島 ノ富豪ノ子弟進ンテ商客ト 我帯テンラ Œ ニ鐵炮ヲ 卡 坤軸亦折 鲍 一艧 伊豆州ニ達ス州人其 ノ今以テ其 ヲ然ラハ E 有除年ナリ鶴髮ノ翁モ ノアリ兹ヨリ以降關東八州率土 ク迄海貨壁珍ヲ載 ___ 1% ス 携 旣 故老二聞 國寧坡 則 骏 V = ~ 3/ 旣 2 ノ識ヲ符 チ 3/ 鐵 テ テ扶桑六十州ヲ = トス吁時 天 發 府二 炮 ス 1 7 ノ近邦皆傳テ之ヲ習フ畿內關 ノ我種子島 時 日 達シ三貢 V ノ貨ヲ掠メ取リ商客亦其ノ所ヲ失フ船中ニ我僕臣 セテ我朝 ス 育之ヲ ナル ト為ス古 7 ク天文壬寅癸卯 28 待テ纜 ナル 其 カナ命 ノ鵠 一聲動 モノ殆ント千人概師篙師 船 = 叨 = 權與 歸 7 記 ノ濱傳テ之ヲ智ハ = 解 中 ラン 乘 日 ス ナ 3/ in ルヲ得 ルカナー資船 丰 又 12 ラ ク光徳善ア 捷ヲ サ iv 毛 -ノ交新貢ノ三大船將 iv ヲ 25 ノアリ IV ス 齊 明 大洋 H. æ ス シテ我 ウシテ望洋 ナ 7 1 リ告者 リテ 復鐵 是 ナ ノ中黒風忽チ 四 サ ノ得テ之ヲ V 檣傾 ルモ 小島 世 匠 州 知 7 = _ w 人見テンラ 1 カカラ 種子 昭 ノナシ今夫レ 向 = 卡 3/ 檝 [日] テンフラ 3/ 岩 ---4 學フノミ 大明 旭 推 嚮 操 IV 二 12 翌 不幸 世 牛 17 w w 能 k ノ産 奇 西 华 鳥 = 國 THE. 1v 東 再. 14 23 無窮ノ義 上松下五 此 化 遊 ナ サ ノ道 神 種 3/ E ラ ノ物 其 窺 知 5/ テ 1 w 1 テ 狂 如 ス

後世ノ過ナリト因ラ之ヲ書ス

索

引

数字ハ西曆年號ヲ示ス
イロハ又ハ五十音ノ代リニ ABC ヲ用フ



司令官	1612	Α.	
パンタン	1602	A	
l d	1619	アルブケルケ	1510
バタビヤ	1619	アンボイナ	1511
Breskens (de Vries ノ二番艦	1643	アンジェー (Paulo)	1547
Byleveld (Montanus 中ノ科學	著) 1649	Adams (William)	1600
Busch (Sea of Okotsk 初航	者)1696		1620
Behling (Beeling トモ) 露ノ		安平 (アンピン)	1624
大探檢家	1728	安宅丸	1635
	1729		1682
Benyowsky(俗稱ハンベンゴロ	· -) 1771	嵐山甫庵	1661
Burg (蘭船)	1772	Atlasoff (露人)	1697
Billing(英人ニシテ露ノ探檢	渚) 1785	新井白石	1708
Broughton (英艦長)	1796	. 17	13, 1715
Blossom (英艦)	1827	青木昆陽	1720
B echey (英艦長)	1827	17	39, 1744
Belcher (Sir Edward)	1845	アレウシヤン	1767
ビッドル (米司令官)	1846	Awos (露船)	1807
Barracouta (英艦)	1854	阿部伊勢守(老中)	1843
1855,	1856		1855
蟠龍艦(英國寄贈エンベラー	號)1858	Alcemene (佛艦)	1844
		旭丸 (俗=厄介丸)	1856
С			
コルチス(メキシコ征服ノ西	(略) 1520	В	
コエルホ (Coelho)	1570	Burney	
	1587	Voyage to South Sea	删尾附錄
千々石清左衞門	1582		目錄中ニ在リ
コンサール (ペール)	1594	バルボア	1513
チャリチー(蘭船蘭名リーフ		ブルーワル (ヘンドリツ	
Changing 11	,		

Elasms (Liefdi 號舊名)	1600	Cocks (Richard)	1613
Eliza (米船)	1797	Constanzo (Padre Camilo de)	
Eclipse (米船)	1807	カルハイルロ (P. Diego	
エワレツト (米官)	1846	Car vailho)	1617
Elgin (Lord 英使節)	1858	Compania 島 (得撫蘭名)	1643
榎本釜次郎	1862	Chmiteffskoy	1743
F		Cook (Captain 英艦長)	1779
深江浦(長崎港舊名)	1505	1768, 17	
福田(長崎港外)	1565 1565	Cecille (佛海將)	1844
フロイス (Froez)	1570	Cleopatra (佛艦)	1846
Fort Zeeland (臺灣)	1624	Columbus (来艦)	1846
踏繪	1629, 1856	Coffin (小笠原島=米人命名)	1848 1853
Fonte (de Fonte 西ノ海將)		Curtius (出島甲比丹)	1855
** - *	1776, 1781	朝陽艦(エド號)	1858
Frederick (英船 East India		4747	1000
Furious (英艦)	1858	D	
福澤諭吉		大泥園	1599
福地源一郎		出島	1634
		163	
G		Dejneff (露人白令海峽發見者)	
ゴア (臥亞)	1510	Davidoff (露船 Awos ノ船長)	1807
Galvao (Antonio)	1542	Doeff (出島ノ甲比丹)	1809
五峯(王直ノ號)	1553	Diana (露艦)	1811
ゴホー (ジャン)	1592	Diana (他ノ露艦)	1854
滿生貞秀 (氏鄉家來)	1588	Douglas (Sir Archibald)	1873
後藤梨春	1765		
五郎次 (漂流者一覽表)	1807	E	
Golownin (露艦長)	1811	エルマーク (露人)	1581

鵬翔丸(英ヨリ購入舊名カ	タリ	Gordon (英艦長)	1818
ナテレシ	ヤ) 1858	Glyn (米艦長)	1849
鳳凰丸(本邦製後ノ豐島形)	1858	グロート (佛使)	1858
1		Н	
家康	1542	秀吉	1536
伊東義賢 (羅馬遺使)	1582	日出港(豐後)	1549
岩上傳右衞門(氏鄉家來)	1584	平月	1550
印度總督	1591	原田孫七郎	1592
家康ノ船太平洋ヲ横ギル	1610	ハウトマン (蘭人)	1595
今泉令史 (支倉一行)	1613	ヘロニモ	1599
家康整	1616		1602
伊能忠敬	1745	支倉常長(政宗ノ羅馬遺使)	1613
1800	, 1821	澎湖島	1622
イジョー (露人)	1785	原主水 (羅馬遺使)	1623
石川將監忠房	1798	濱田彌兵衞	1628
井戸石見守	1853	ハバロフ(陸上ヨリ黑龍江探	檢者)1644
	1854	平澤元愷	1774
伊澤美作守	1854		1778
并上信濃守(下田奉行)	1856	堀田仁助	1799
	1858	羽太正養	1802
岩瀨肥後守	1857	Hall (英艦長)	1816
	1858	ヒツテント(米艦長)	1846
井伊直弼 (大老)	1858	林大學頭	1853
池田筑後守(遣歐使節)	1863	堀織部	1853
		堀田正篤 (老中)	1855
J			1858
ジャンゴホー	1592	Harris (Townsend 米領事)	1856
Jerome de Angelis	1620		1858

近藤守重	1798	ジャガタラ	1619		
Krusenstern (露艦長)	1804	Juno (露艦)	1806		
川路聖謨	1853	壽三郎(漂流者一覽表) 1807	, 1831		
1854, 1	858				
看光丸(舊名スームビング)	1855	K			
君澤形	1856	カテキ (貨狄)	1600		
成臨丸 (ヤツバン號)	1857	東浦寨	1601		
1	858	Kelung (基隆)	1626		
木村攝津守	1858	海外渡航	1635		
勝安房守	1858	寬永鎖國令	1639		
小出大和守(遺露使篩)	1866	Kwast (蘭艦長)	1639		
L		Kastrikom (de Vries 直率蘭艦)	1643		
~		樺太	1643		
レガスビ(西將)	1564	1684, 1785, 1786, 1792, 180	1,		
呂宗	1577	1806, 1808, 1853, 1875			
リーフデ (蘭船)	1600	Kaspar (Montanus 中ノ醫官)	1649		
呂宗遠征ノ中止	1638	河村安治 (瑞軒)	1670		
Lowascheff	1767	快風丸(水戸ノ官船石狩河ロ			
In Perouse (佛ノ大航海者)	1787	=至ル)	1688		
Laxmann (Adam 露艦長)	1792	Kempfer	1690		
Lutke (露船長)	1828	堪察加	1697		
Ladoga (米捕鯨船)	1848	1699, 1707, 171	6		
M		Kosierswski	1713		
174		Krenitzin	1767		
Murdock		桂川甫周	1774		
History of Japan	ニ在り	179	3		
Madagascar	1506	King (英艦長)	1779		
マラツカ	1511	幸太夫 (躑國へ漂民)	1782		
マゼラン	1519	Kodai (上記ト同人)	1792		

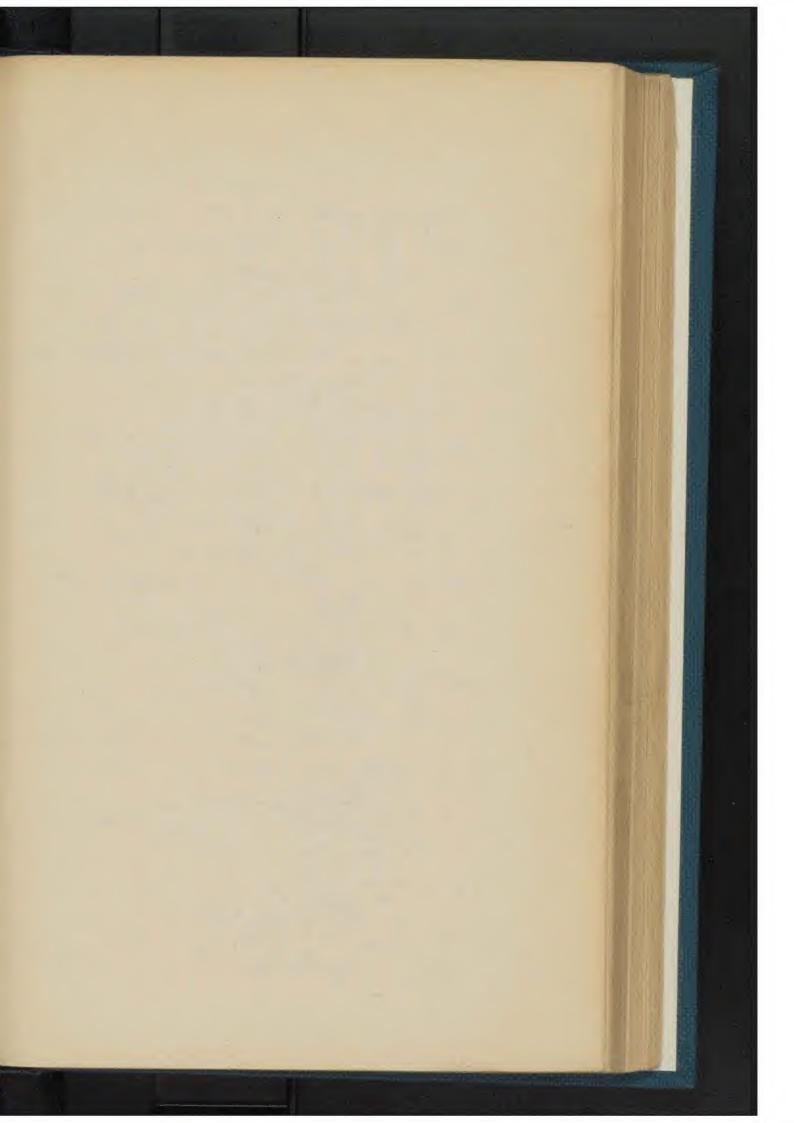
1854,	1858	Motta (Antonio da)	1542
水野筑後守(長崎奉行)	1854	松永久秀	1560
向山隼人正 (駐佛公使)	1867	マニラ	1571
		1590, 1606,	1792
N		町野友重 (氏郷家來)	1590
信長	1534	松前及松前侯	1660
南嶽寺	1569	1604, 1778, 1799, 1807,	1821
	1589	松本忠作(支倉一行)	1613
中浦某(羅馬遺使)	1582	政宗(政宗ノ船出帆ス)	1613
長崎奉行	1593	モロー(葡人或云長崎住母品	4氏)1613
1633,	1700	向井將監	1630
二十六聖磔刑	1597	益田四 與	1637
西川如見	1695	Montanus	1649
	1719	Morosko (Anadir ヨリ南下シ テ勘察加=至リシ	初) 1696
中根玄圭	1720	前野良澤	1771
野呂元丈	1720	最上德內	1786
中川潤庵	1771	1791,	1798
中村小一郎	1801	松平信明	1798
Nadesida (露艦)	1804	間宮林巌	1808
松平圖書頭康英	1808	松田傳十郎	1808
中濱萬次郎(漂流者一覽表)	1841	水野越前守	1834
永井岩之丞(後玄蕃尚志)	1854		1843
中村出羽守(下田奉行)	1856	水戶齊昭 (烈公)	1834
新見豐前守(シンミ)	1858		1854
生麥事件	1862	Morrison (米船)	1837
0		Mercator (米船)	1845
0		Mariner (英船)	1849
大內氏	1523	Matheson (英艦長)	1849
王直	1553	村垣與三郎	1853

Pellow Capt. Fleetwood 英	E) 1808	大村侯	1562			
Phaeton (英艦)	1808	Organtino(ウルガン,オルガン)	1570			
バレンバルグ (操艦)	1844	大友氏	1582			
Preble (米艦)	1849	小笠原島	1593			
ベルリ (彼理米將)	1853	1612, 1668, 1675, 1733, 182	7,			
	1854	1828, 185	ş			
プーチャチン (露使)	1853	和蘭及蘭王	1609			
	1854	1612, 1700, 1844, 185	5			
Pohattan (米艦)	1858	蘭人御條目 (Rヲ見ョ)				
0		大久保石見守長安	1613			
Q		Ongelukkig 島 (英 Unlucky)	1643			
D		大槻玄澤	1783			
R		大石逸平	1786			
レガスピ	1564	小栗 (豐後守後=上野介)	1858			
	1671	Osborn (Capt. Sherard 英)	1858			
Rodorigo (Don Rodrigo						
de Vebero Velas	co) 1609	P				
湖人御條目	1638	Peixotto (Antonio)	1542			
	1659	Pinto (Fernando Mendez)	1542			
Return (英船)	1673	Psalmanazaar	1549			
林子平	1775	ベールゴンサール	1594			
1785, 1787,	1792	六夕二	1602			
Resanoff (霧使)	1804	ビーテルドツト (蘭ノ印度總督)				
Rangsdolf (第7醫官)	1804	Pessoa	1608			
Raffles (Sir Stanford)	1813	Ponghow	1622			
ロツデール(ジョン米艦長)	1855		1711			
0		1725				
S		D I	1777			
セラオ (福人)	1511	TV 11	1797			

	/	C . (35 * 313 - 3)	45.0			
司馬江漢	1788	Sousa (Marin Alphonso de)				
政德丸	1799	朱印船	1592			
辰悅丸	1800	1601, 1	634			
Schowostoff (露船Juno)船長)	1806	San Philip (西船)	1596			
シーボルト	1823	白絲	1609			
1826, 1829, 1859, 1861, 18	62	スペツクス (ジャツク) 1				
Savory (Nathaniel)	1830	1	612			
澁川六藏	1844	San Francisco (西船)	1609			
Samarang (英艦)	1845	ソテロ	1612			
Sabine (英艦)	1846	1	.613			
Stirling (英將)	1854	ソマトヨール (葡海將)	1611			
スームビング(蘭ヨリ購入		Saris (Capt. John 英)	1613			
後ノ看光丸)	1855	島原	1639			
昌平丸(薩藩製造)	1855	1	.638			
新見豐前守	1858	Staten Id. (擇捉島ノ蘭名)	1643			
18	660	Schaep (Hendrick Cornelys,				
柴田日向守(遣英佛使節)	1865	de Vries / 二番艦艦	受) 1643			
70		Sparrow Hawk (蘭船)	1653			
T		末次平藏	1670			
鐵炮記	1543	Sidotti (伊人Abbe Sidotti)	1708			
種子島	1543	下田	1720			
種子島時堯	1543	杉田玄白	1733			
トレー師	1552		1771			
15	570_	Spanberg (露船)	1738			
竹內知勝(氏鄉家來)	1586		1741			
高山右近	1587	Schelting (露船)	1738			
魚屋	1594		1741			
東印度商會	1600	Synd (露國雇員英海軍士官)	1764			
大船	1609	Slavenise (船閘)	1775			

	1854	1 150	1853
戶田伊豆守(浦賀奉行		桃庵	1610
後=遣歐使節) 1853	Tasman (蘭ノ大探檢家)	1629
	1861	天地丸	1630
竹內下野守 (函館奉行)	1854	天下丸	1635
德川民部大輔	1867	鄭芝龍 (及鄭成功)	1646
Tracy (英海軍大佐)	1868	1649, 165	8, 1661
U		Tschirikoff	1728
O		竹內德兵衞	1744
氏鄉 (蒲生)	1548	Thunberg	1775
浦賀	1720	Titsingh	1780
鵜殿民部少輔	1854	津太夫 (仙臺舟子)	1793
**		高橋至時	1796
V		富山保高	1799
Vasco da Gama	1502		1801
ウイレラ (Vilela)	1570	高橋一貫	1799
ウアリャー= (Valegnani)	1570		1802
ウイスカイノー	1611	高田屋嘉平	1800
Van Diemen	1629	1812	2, 1813
Vries (de)	1643	高橋治太夫	1801
Victorious (英艦)	1846	戶川安論	1802
Vincennes (米艦)	1846	Torey (英艦長)	1803
	1855	遠山景晋	1805
ウェルニー (佛人)	1864	寶島 (薩摩)	1824
	1875	高橋作左衛門	1825
137			1829
W		高野長英	1839
和笼	1580		1850
ウェルデル	1634	筒井政憲	1853

山田長政	1619	Walton (露人)	1738
1621, 162	26, 1633	和田平太夫	1786
米澤德兵衞	1633	Waardenaar	1813
安井算哲	1684	渡邊崋山	1839
吉宗 (八代將軍)	1716	W.F.	
	1751	X	
山脇東洋	1754	Xavier (Francois ザビエル)	1549
吉田秀長	1796		
山路德風	1796	Y	
蝦夷	1718	横瀨浦(佐世保軍港内ノ)	1562
1798, 17	99, 1804,	山科勝成(氏郷家來)	1580
1821, 18	53, 1854	横田玄佐(大友宗麟家來)	1582
Z		耶楊子(ヤンヨス)	1610
L L		耶蘇禁教	1611
Zeimotto (Francisco)	1542	1613, 1614, 1634, 16	635



. . .

犯 は 8 源 12 何 的 在 300 遊 國 L 英 明 得 12 72 出 學 + 4 治 碑 士 3 1 年 是 し 觀 彼 探 四 益 入 行 察 等 檢 前 1 廮 n 餘 + L 3 洋 固 誌 著 ---3 1 4 0) 業 年 所 其 古 教 A 1 航 者 5 海 書 學 から 0 績 著 少 0 を 我 單 記 爽 舊 傳 8 者 力 5 5 が 21 は 京 要 儲 大 播 2 約 于 The 新 英 海 愛 72 12 盐 博 見 駐 5 得 0 帝 3 L 300 聞 國 好 在 7 春 12 物 形 せ 館 17 奇 錄 夏 か 跡 ---0 向 0 風 5 册· 相 1 如 2 前 情 土 th 九 圖 何 CA K 志 書 E L な 後 1 3 g. 充 及 室 詳 行 L L 這 公 名 -般 21 か LJ た CK 3 暇 づ 探 L 其 歸 近 21 と 3 す h 0 朝 代 所 H が 利 T 世 0 L 3 0 他 用 爲 譜 洋 L 史 5 21 探 12 7 め 種 L 人 籍 あ 檢 1 12 幾 航 0) H 地 あ 5 歐 研 許 誌 5 L 行 あ 本 2 な 5 究 米 探 多 0 L な から 6 通 ず 資 人 檢 园 蓋 料 ん。 力言 覽 Tri 商 华 < de 貿 L K H 表 L を 其 銳 本 5 1 縱 當 易 時 著 0 意 17 女 17 時 2 V 集 蒐 關 者 著 手 0 U 1 書 集 之 者 亦 經 し は 21 1 路 世 を 其 す 0 倫 0 著 3 書 敦 如 目 5 私 0

刊

L

7

小

數

同

好

0

士

12

頒

布

せ

6

机

V2.

即

5

今

增

訂

L

-

新

刊

せ

6

3

1

所

0

华

表

0

刨

詣 L 版 事 愈 酮 本 項 4 來 3 は 深 - -な 初 遠 數 版 を 年 本 加 著 手 12 者 1 亦 數 舊 退 __ 倍 作 閑 本 L 0 0 0 .目. 年 後 惠 0 表 更 與 附 聖 21 を 錄 增 東 得 2 盆 西 1 索 修 新 您 引 訂 古 考 5 す 0 0 を 3 史 登 源 2 書 17 7 1 を 供 内 歲 博 世 容 あ 搜 L 外 2 5 L 形 是 2 7 全 21 日 頗 3 於 本 3 T 探 13 新 記 檢 か 載 史 5 7 補 17

引、

<

史

學

家

讀

史

者

0

座

右

21

備

1

6

礼

L

7

す。

111

22

慶

す

~

4

21

あ

3

ず

ox

公

刊

將

12

註

世

6

12

す

る

造

3 5 識 B 學 を 岩 0 界 待 L ٤ 12 9 夫 調 異 7 n 彩 3 闡 年 ~ * 明 表 し。 放 4 中 2 5 探 25 n 檢 足 L 航 5 所 海 海 多 等 將 k 0 12 存 考 L す 祭 7 15 17 愛 4 至 史 な 0 50 家 T 72 は 然 3 著 著 5 者 者 ば 0 亦 本 期 能 5 領 5 之 12 其 12 愿 0 す 由 IIII 5 3 目 1 所 聖 此 0 發 0 海 推 著 事 書 L 0 72 永 智

感 何 0 興. 20 便 手 歡 極 甚 平 8 だ CK 素 2 迎 大 自 深 1 な 6 告 Zn 5 史 当 3 ٤ 傳 0 を 爲 0 あ 得 世 要 50 る h 項 o o 12 を 於 妓 年 7 況 12 表 2 子 h 0 命 å. 0 體 日 年 裁 本 表 12 0 癖 編 海 を す 表 以 3 諸 7 艺 邦 L 好 12 T 孙 劉 此 私 寸 0) 力 3 探 12 史 檢 以 實 年 T 12 表 簡 就 0 捷 4 刊 R T 行 L は 12 7 予 接 檢 す 亦 索

今 此 0 新 修 0 年 表 幸 12 岩 波 氏 0 好 意 12 依 3 T 出 版 せ 5 3 1 51 及 CK 一 欣 基 0 情 措

く能はざるものあり、乃ち敢て憚らず蕪雜の群を列ねて跋文となす。

即位大與を舉げさせたまひし昭和三年の十二月三十一日京都にしるす

新村

出

一近七	一五三	五五二	一四七	八五	ハニ	七〇	三九	=	= -	一八八	1.1	頁	
三一四行	九行	十行	初行	安政元年	底行	三行	底ヨリ九行	一六二〇年	一五八三年	感引三行	一五四三年	行叉八年	正
Geoge Palmanajaar	Captanin	Travaels	ヲ以テボタニー	・プーチャン	感謝七	Thunderg	1940	括弧ノ尾端此ノ年ニ及ブラ例	有村。	兩。	名 y·	報	誤
George Psalmanazaar	Captain	Travels	B	ブーチャチン	感謝セリの	Thunberg	1640	- 119	有馬。	四〇	名クの	TE.	

昭和四年三月十八日第一刷發行 唱 和 猴 四 有所權版 华三十四日印 行 所 南神保町十六番地取京市神田區 刷 种 Q 额 醐 行 楷 看 東京市神田温縣町三丁貝十七番地 京京市神出區府 部保町十六番 地 弊人日本經檢年表 白 岩 枥 定價 井 内 振整東京二六二〇 波 甙 曾 间 太 灾 COM 郎 雄 郞 〇九八 圆件 账 報

(斤山製本)

It5U69

